第３章 ハケ遺跡第７地点の本調査

Ⅰ 遺跡の立地と環境

ハケ遺跡は、武蔵野台地の北東端、荒川低地に舌状に突き出た武蔵野段丘面のいわゆる川崎台の東側付け根に立地している。遺跡の東側を新河岸川が台地東縁をなめるように流れ、東方は新河岸川に臨む急峻な崖が形成されている。遺跡の北側は落差２ｍ程度のゆるい斜面を形成し、小支谷が入る。標高は 14 ～ 16 ｍで、遺跡の範囲は南北 360 ｍ、東西 160 ｍ以上ある。宅地開発される遺跡中央に畑が残る。

周辺の遺跡は、舌状台地の北側に旧石器、縄文、古墳～奈良・平安時代、中近世の川崎遺跡が隣接し、台地続きの南東側に縄文時代前期、中期、晩期、古墳時代の著名な上福岡貝塚、権現山遺跡がある。

1976 年以降、宅地開発等に伴う緊急調査が増加し、2014 年 12 月現在 18 ヶ所で調査が行われている。主たる時代と遺構は縄文時代前期から後期の住居跡、古墳時代から奈良・平安時代の住居跡・掘立柱建物跡、近世鍛冶遺構（旧福田屋跡）と、2014 年に第 16 地点の発掘調査で、古墳の周溝から６世紀の人物埴輪と円筒埴輪多数が出土した。

本遺跡は便宜上東西に走る道路によって南側からハケ遺跡Ａ、ハケ遺跡Ｂ、ハケ遺跡Ｃと呼称していたが、現在はハケ遺跡に統一している。

Ⅱ 本調査に至る経過と調査の概要

調査は宅地造成に伴うもので、原因者より 2006 年６月 24 日付けで「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡南端に位置するため、申請者と協議の結果、遺構の存在を確認するために試掘調査を行った。

試掘調査の結果は 2008 年３月刊行のふじみ野市埋蔵文化財調査報告第４集『市内遺跡群３』に報告済みである。

2014 年度になり宅地造成の開発が決定し、遺跡への影響が避けられないため、原因者負担による本調査を実施した。

本調査に先立ち、2013 年８月 10 日と 11 日に遺構範囲確認の試掘調査を再度実施した。調査区北側の先端に幅約 1.5 ｍのトレンチ１本を設定し、縄文時代の住居跡や溝等が確認された。

本調査は開発区域を南北に分け、南側調査区を８月 21 日～ 10 月２日まで、北側調査区を 10 月３日～ 11 月 11 日まで、重機による表土除去の後、人力による調査を行った。

調査区内に５ｍ方眼の区画を設定し、北から南にＡ・Ｂ・Ｃ～、東から西へ１・２・３～の番号を付し、A1 区・B1 区～とした。

第８図　ハケ遺跡の地形と調査区（1/4,000）

第６表　ハケ遺跡調査一覧表

地区 地点	所在地	調査期間 （ ）は試掘調査	面積 （㎡）	調査原因	確認された遺構と遺物	所収報告書
A- 1次	大字中福岡字遠見 1228 ～ 2021	1976.9.11 ～ 16	306	個人住宅	古墳住居跡 1 軒、竪穴状遺構 3、縄文土器	上福岡市遺跡調査報告書
C- 1次	大字中福岡字清見 1480 番地	1977. 8. 2～ 27	1794	宅地造成	縄文住居跡 5 軒、奈良平安住居跡 2 軒、竪穴状遺構、土坑、炉跡	ハケ遺跡調査会 ハケ遺跡 C 地区
B- 1次	中福岡 1228-40	1978. 8.28 ～9.10	165	個人住宅	遺構なし、縄文中期土器片	埋蔵文化財の調査（Ⅰ）
B- 2次	中福岡 1181-2	1978. 9.11 ～ 25	360	貸家建設	土坑 4、炉跡 1、土器	埋蔵文化財の調査（Ⅰ）
B- 3次	中福岡 1228-37	1979. 7.20 ～ 31	166		土坑 3、縄文土器	埋蔵文化財の調査（Ⅱ）
B- 5次	大字中福岡字遠見 1228-46	1982. 5.10 ～ 17	165		溝 1、縄文中期土器	埋蔵文化財の調査（Ⅴ）
C- 2次	福岡 3-2068 の 1,2	1987. 4.16 ～5.29	1900	倉庫付住宅改築	縄文中期住居跡 11 軒、奈良平安住居跡 4 軒、掘立 1 棟	埋蔵文化財の調査（Ⅹ）
C- 3次	福岡 2-2-1	1988. 8.15 ～ 20	627	駐車場	縄文中期住居跡 4 軒、平安住居跡 2 軒	埋蔵文化財の調査（11）
C- 試	福岡 3-4-2	1988.10.24 ～ 28	60	擁壁改修工事	縄文前期住居跡 1 軒	埋蔵文化財の調査（11）
C- 4次	旧福田屋敷地内	1990. 6.20 ～9. 6 H3.1 月末～継続調査予定	500		旧福田屋柱礎石跡、鍛冶屋建物跡、（礎石・火処 3・物置跡・粘土貼りつけ円形小竪穴）・江戸前期～中期長方形土坑 12・溝 1・平安住居跡 3・縄文中期住居跡 2、縄文後・晩期住居跡 3 軒	2 年度教育要覧 市史資料編
C- 6次	福岡 3-1189,2056-2	1993. 5. 6～ 18	141.91	個人住宅	縄文中期土坑 6	埋蔵文化財の調査（16）
C- 4次	福岡 3-2069-1 の一部	1994. 6.10 ～ 1.31	54	河岸記念館管理棟・庭造成工事	縄文中期住居跡 5 軒、土坑 30	埋蔵文化財の調査（17）
C- 試	福岡 3-1184-8	2000. 1.26	100	個人住宅	なし	埋蔵文化財の調査（22）
7	福岡 3-2	（2006. 7.10 ～ 22） （2013. 8.10・11） 2013.8.21 ～ 11.11	666 712.35	宅地造成 宅地造成	縄文・奈良平安遺構検出 縄文中期住居跡 3 軒、奈良平安住居跡 4 軒、集石土坑 2、土坑 3、井戸 1、溝 4	市内遺跡群 3・13
8	福岡 3-2069-9	（2009．3.17）	99	個人住宅	住居跡確認	市内遺跡群 6
9	福岡 3-1257-7,1259-1	（2010. 2. 2～4）	120	個人住宅	土坑 1、風倒木 1	市内遺跡群 8
10	福岡 3-1363-14	（2011. 4.22 ～ 25）	122.06	個人住宅	時期不明溝 1 本	市内遺跡群 14
11	福岡 3-1363-11	（2011. 4.21 ～ 22）	157.68	分譲住宅	縄文時代埋甕 1 基	市内遺跡群 14
12	福岡 3-1472-1	（2012．9.24）	122	個人住宅	ピット	未報告

第７表　ハケ遺跡縄文時代住居跡一覧表　（単位 cm）

住居番号	調査年度	調 査 名	調査率	平面形 （ ）は推定	規 模	炉			埋甕	周溝	時 期	備 考	文 献
						地床	炉体	石囲					
1	1977	C 地区 1 号住	1/4	（円形）	600 ×			○			加曽利ＥⅡ		ハケ遺跡 C 地区
2	〃	C 地区 4 号住	完掘	楕円形	（600）	○					加曽利ＥⅠ		〃
3	〃	C 地区 5 号住	完掘	（方形）	400 × 500	○					諸磯		〃
4	〃	C 地区 6 号住	（完掘）			○					加曽利ＥⅢ	7 住と重複	〃
5	〃	C 地区 7 号住					○	○			加曽利ＥⅠ		〃
6	1987	C 地区 2 次 1 号住	1/3						○		加曽利ＥⅠ		埋蔵文化財の調査Ⅹ
7	〃	C 地区 2 次 2 号住	西 1/2	隅丸台形				○		○	加曽利ＥⅠ	連弧文土器出土	〃
8	〃	C 地区 2 次 3 号住	完掘	楕円形	720 × 600			(○)		○	加曽利ＥⅡ	連弧文、曽利系多い	〃
9	〃	C 地区 2 次 4 号住	北 1/2					○			加曽利ＥⅡ		〃
10	〃	C 地区 2 次 5 号住	ほぼ完掘	円形	620	○					加曽利ＥⅡ		〃
11	〃	C 地区 2 次 7 号住	完掘	円形	700			○			加曽利ＥⅡ		〃
12	〃	C 地区 2 次 8 号住	完掘	円形						○	加曽利ＥⅠ	2 軒の住居の重複	〃
13	〃	C 地区 2 次 9 号住	完掘	方形	720 ×	○			○	○	加曽利ＥⅡ	10 住と重複	〃
14	〃	C 地区 2 次 11 号住	完掘	円形	450 × 400	○					加曽利ＥⅡ		〃
15	〃	C 地区 2 次 14 号住	完掘	円形	660 × 640		○		○	○	加曽利ＥⅡ	3 度建替え	〃
16	〃	C 地区 2 次 16 号住	完掘	隅丸台形	670 × 650	○			○	○	加曽利ＥⅡ		〃
17	1988	C 地区 3 次 18 号住	完掘	円形	650				○2		加曽利ＥⅡ	17 住と重複	〃
18	〃	C 地区 3 次 19 号住	西 2/3	円形	800 と 500			○		○	加曽利ＥⅡ	2 軒の住居の重複	〃
19	〃	C 地区 3 次 21 号住	完掘	円形	460 ～ 480				○		加曽利ＥⅠ	滑石製垂飾品	〃
20	〃	C 地区 3 次 22 号住	西 4/5	不整円形	700						加曽利ＥⅡ		〃
21	1990	C 地区 4 次 23 号住	1/4	（方形）							安行 1	床面から土偶	市史資料編
22	〃	C 地区 4 次 24 号住	西側未調査	楕円形									〃
23	〃	C 地区 4 次 25 号住	南東隅 1/4	（円形）	500						加曽利ＥⅡ		〃
24	〃	C 地区 4 次 26 号住	北東隅 1/4	（楕円形）	600						加曽利ＥⅢ古		〃
25	〃	C 地区 4 次 28 号住	土器片が多量に出土したため住居とした								加曽利ＥⅢ		〃
26	〃	C 地区 4 次 29 号住							両耳壺		加曽利ＥⅢ古		〃
27	〃	C 地区 4 次 30 号住	土器片が多量に出土したため住居とした								称名寺～堀之内		〃
28	〃	C 地区 4 次 31 号住	土器片が多量に出土したため住居とした								堀之内		〃
29	〃	C 地区 4 次 34 号住	一部	楕円形	560					○	加曽利ＥⅠ		〃
30	〃	C 地区 4 次 35 号住	一部	（円形）	（8m ×7m）	○					加曽利ＥⅢ		〃
31	2013	J31 号住居	7/10	楕円形	（690 × 550）	○				○	勝坂～加曽利ＥⅠ	H17 住、集石土坑 3・4 と重複	市内遺跡群 13
32	〃	J32 号住居	完掘	円形	（480 × 408）	○					勝坂Ⅱ		〃
33	〃	J33 号住居	9/10	楕円形	（570 × 500）	○					加曽利ＥⅡ	H16 住、集石土坑 1、溝 2 と重複	〃

第８表　ハケ遺跡古代住居跡一覧表　（単位 cm）

住居番号	調査年度	調査名	調査率	平面形（ ）は推定	規模	カマド		周溝	主軸方位	時期	備考	文献
						カマドK	設置壁					
1	1976	A地区LN01	1/2	隅丸方形	440 ×	K	北	○		鬼高		上福岡市遺跡調査報告書
2	〃	C地区３号住	完掘	長方形	470 × 480	K	北	○		8C ３四半期		〃
3	〃	C地区８号住	完掘	長方形	560 ×388 ×44	K	北	○		8C ４四半期		〃
4	〃	C地区２次６号住	完掘	方形	300 × 280	K	北			国分		〃
5	〃	C地区２次10号住	完掘	長方形	450 × 300	K	北	○		8C末		〃
6	〃	C地区２次12号住	完掘	長方形	400 × 340	K	南東	○		9C後半		〃
7	〃	C地区２次15号住	南東 1/4					○		9C後半		〃
8	〃	〃２次掘立柱建物	桁行４間×梁間２間		870 × 470				東面に庇	8C中葉		〃
9	1988	C地区３次17号住	完掘	長方形	350 × 290	K	北東	○		10C初頭		埋蔵文化財の調査11と市史資料編
10	〃	C地区３次20号住	南東 1/6							8C ３四半期		〃
11	1990	C地区４次27号住	完掘	方形	400 × 380		北東	○		10C初頭		〃
12	〃	C地区４次32号住	カマドの痕跡が確認されたため住居とした							10C初頭		〃
13	〃	C地区４次33号住	ほぼ完掘	方形	320 × 340			○		8C ３四半期	カタイ金具出土	〃
14	2013	H14号住居	4/5	長方形	410 × 340	K	北	○	N－4°－W	8C中頃		市内遺跡群13
15	〃	H15号住居	完掘	長方形	290 × 275	K	北		N－8°－W	9Cか		〃
16	〃	H16号住居	完掘	不整形	395 × 468	K	北	○	N－25°－W	8C後半		〃
17	〃	H17号住居	1/5	不明	(300)×140			○		8C前～中頃か		〃

Ⅲ 遺構と遺物

（１）縄文時代の住居跡

縄文時代の住居跡は３軒検出した。各住居跡の概略は第７表と第９表のとおりである。

① J31号住居跡

【位置・時期】本住居跡は調査区の北端に位置し、H17号住居跡、集石土坑３・４と重複する。北側は調査区外に延び歩道に削平され、東側は隣地との境で未検出である。調査率は約70%である。

土層の観察や遺物出土状況等から、本住居跡は拡張ではなく、新たに住居跡が構築された可能性が高い。住居跡の外側から内側（周溝３→周溝１又は周溝２）に新しくなるものと考えられる。床面はほぼ平坦で全体的に硬化している。勝坂～加曽利ＥⅠ期。

【形状・規模】平面形態は楕円形を呈する。規模は、長軸（690）㎝、短軸（550）㎝、深さ40㎝である。

【炉】炉は地床炉で４ヶ所検出した。形状は全てほぼ楕円形である。炉１は古い住居跡に伴い、炉４が配置や規模的にも新しい住居に伴うと考えられる。

炉１の規模は長軸62㎝、短軸50㎝、深さ４㎝である。炉２の規模は長軸110㎝、短軸90㎝、深さ５㎝である。炉３の規模は長軸130㎝、短軸（80）㎝、深さ11.4㎝である。炉４の規模は長軸107㎝、短軸86㎝、深さ24㎝である。

【周溝】周溝は３本検出した。周溝１の上幅は19～33㎝、下幅６～21㎝である。周溝２の上幅は16～21㎝、下幅７～11㎝である。周溝３の上幅は20～61㎝、下幅７～22㎝である。

【柱穴】柱穴は13本検出した。外側の古い住居跡に伴う柱穴はP3・６～９である。内側の２本の周溝に伴う柱穴はそれ以外のもので、主柱穴はP1・２・５・10・11である。

【遺物出土状況】周溝１・２の内側では床面のやや上層から覆土層全体にかけて大量に出土するが、周溝１・２と周溝３の間では極めて出土数が少ない。

② J32号住居跡

【位置・時期】調査区の中央部やや北寄りに位置し溝１と重複する。近現代の井戸や建物基礎などの撹乱を受けるが、調査率はほぼ完掘である。床面は皿状を呈し硬化していない。勝坂Ⅱ期。

【形状・規模】平面形態は円形を呈する。規模は、長軸（480）㎝、短軸（408）㎝、深さ24㎝である。

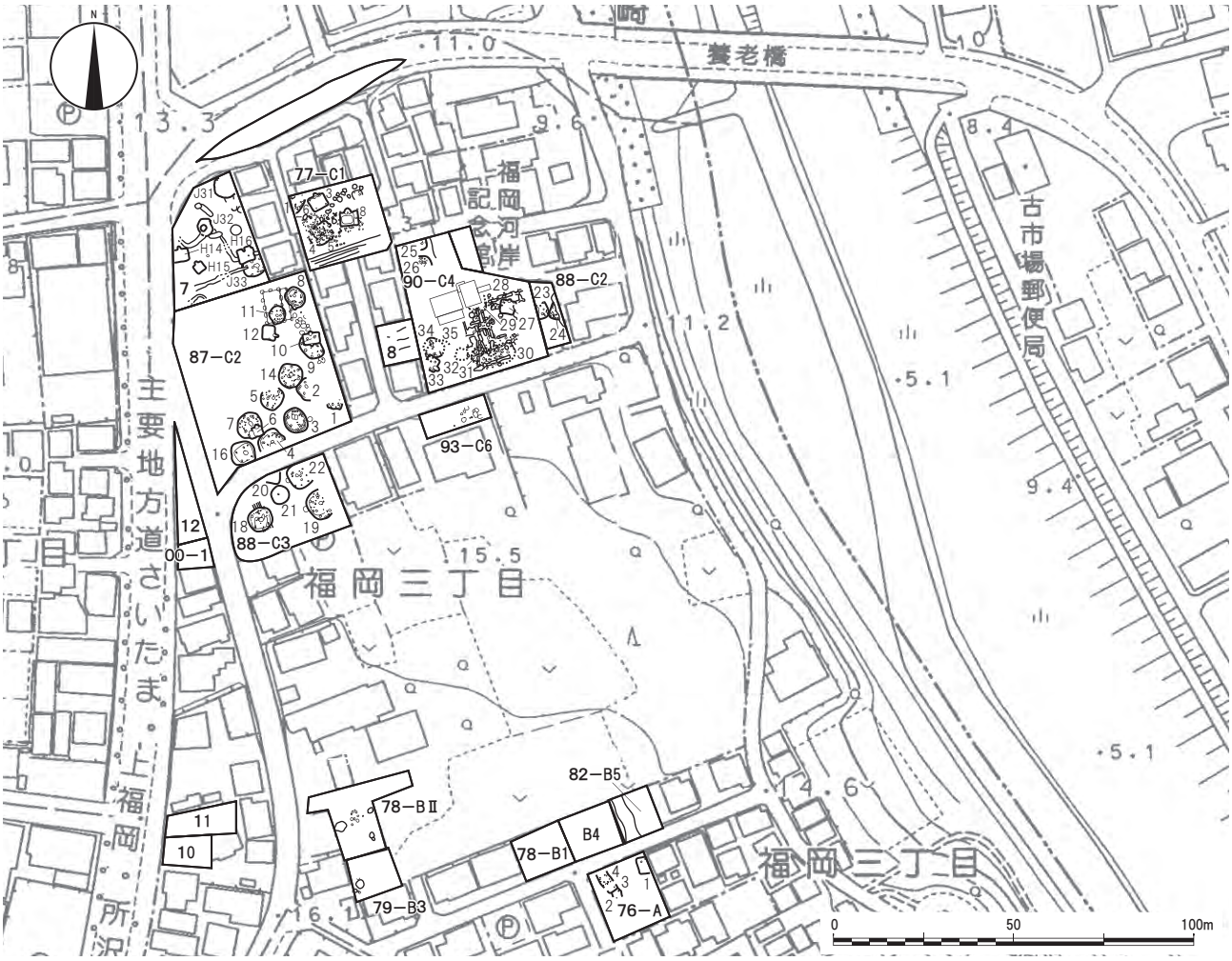
【炉】炉は地床炉で中央部に位置するが、大部分を井戸跡に壊されている。炉の規模は長軸62㎝、短軸50㎝、深さ４㎝である。

【柱穴】柱穴はP2・６・７・10が土層の観察からやや新しく、それ以外のP1・２～５・８～10・12の土層が類似する。主柱穴の配置は４本柱か５本柱とみられる。P11は住居跡に伴わず、住居跡より新しい。

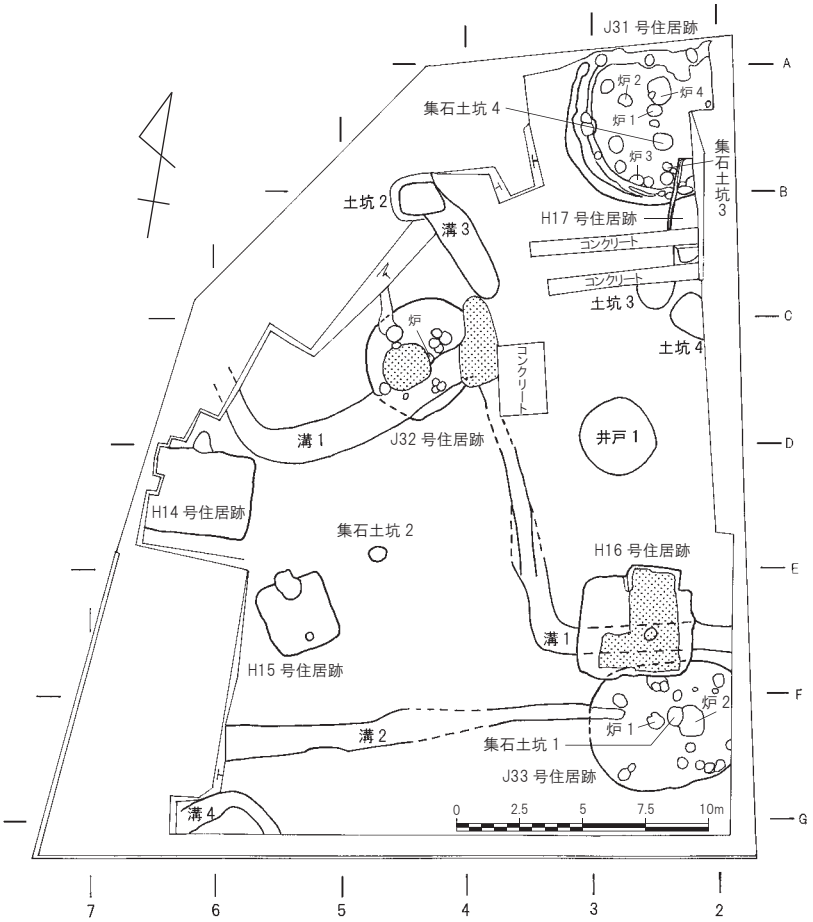
【遺物出土状況】覆土層と住居外の南東部から僅かに出土する。

③ J33号住居跡

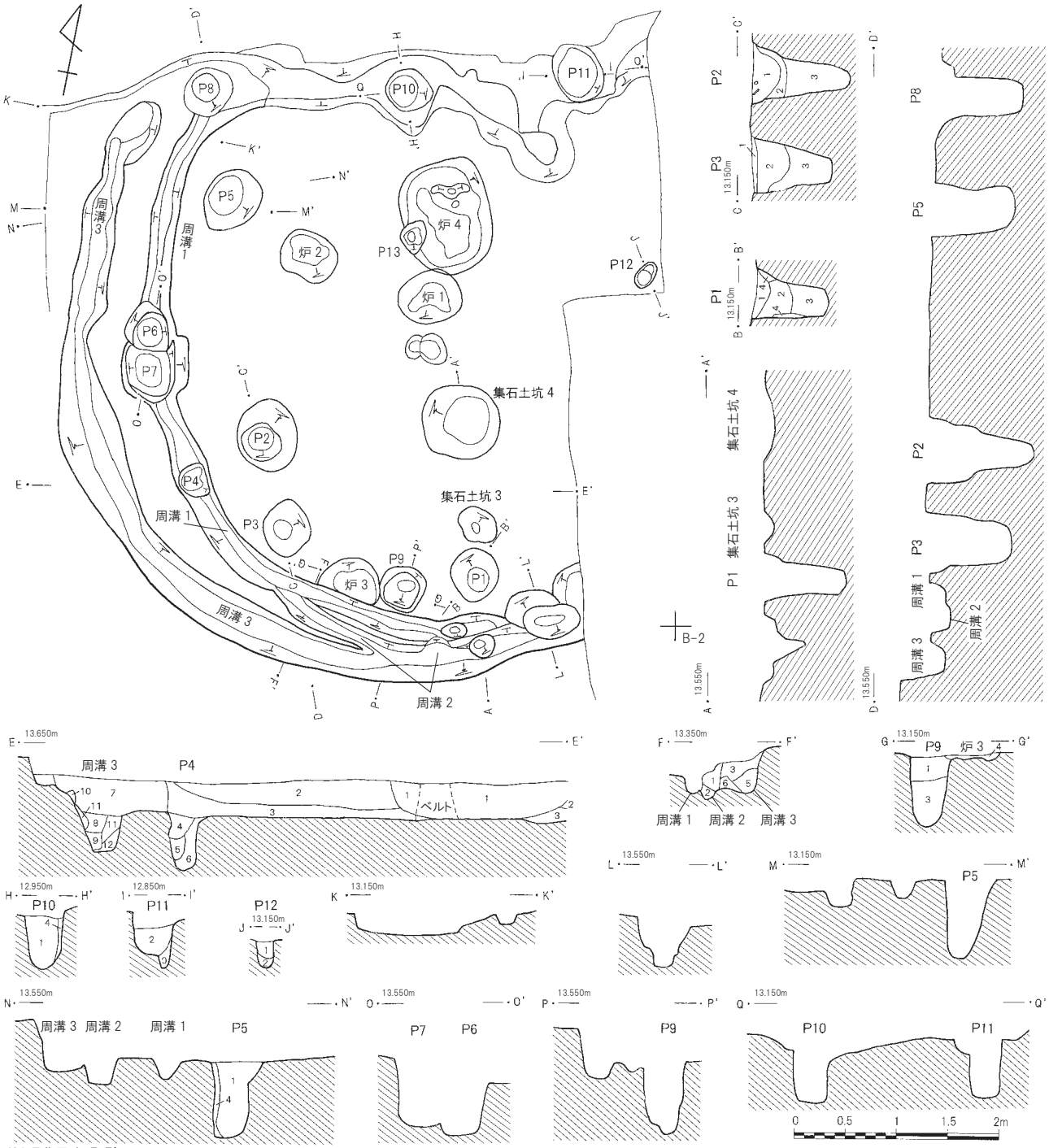
【位置・時期】本住居跡は調査区の南東隅に位置する。H16号住居跡、集石土坑１、溝２と重複し、本住居跡が最も古い。東側は隣地との境で未検出である。調査率は約90%である。加曽利ＥⅡ期。



第９図　ハケ遺跡遺構分布図（1/2,500）



第 10 図　ハケ遺跡第７地点遺構配置図（1/300）



J31 号住居跡　E-E'

1. 黒褐色土　締り強、 粘性有、 2mm 以下ローム粒・5mm 以下焼土・3mm 以下炭化物やや多く含む、焼土やや多いのが特徴
2. 黒褐色土　締り強、 粘性有、 黄灰色味が有る、 3mm 以下ローム粒少し～やや多く、 焼土・3mm 以下炭化物少し含む
3. 黒褐色土　締り強、 粘性有、 2 層より黒色味が有り、 締り強めで 3mm 以下ローム粒多め、 焼土・3mm 以下炭化物少し含む
4. 黒褐色土　締り強、 粘性有、 3mm 以下ローム粒やや多く含み、 色調明るめ
5. 黒褐色土　締り強、 粘性有、 5 ～ 20mm ロームブロックやや多く含む、 ローム粒は4層より少なめ
6. 黄褐色土　締り強、 粘性有、 ソフト質ローム主体、 シミ状に黒褐色土含む
7. 黒褐色土　締り強、 粘性有、 3層より黄灰色味が有り、 色調明るめ、 1cm 以下ロームブロック・粒やや多く含む

7'. 黒褐色土　締り強、 粘性有、 7・8 層の中間的な色調、 2 ～ 5mm ローム粒少し含む

8. 黒褐色土　締り強、 粘性有、 2cm 大ロームブロック少し、 ローム津やや多く含む、 7層より黒色味強い
9. 黒褐色土　締り強、 粘性有、 ソフト質ローム土を多く含み、 色調明るめ、 2cm 以下ロームブロック少し含む
10. 暗黄褐色土　締り強、 粘性有、 地山 (漸移層) の崩落土
11. 黒褐色土主体　締り強、 粘性有、 ソフト質ローム土・ロームブロック・2cm 以下多く含む、 ベースの土は黒色味強い
12. 黄褐色土　締り強、 粘性有、 ソフト質ローム土主体

周溝　F-F'

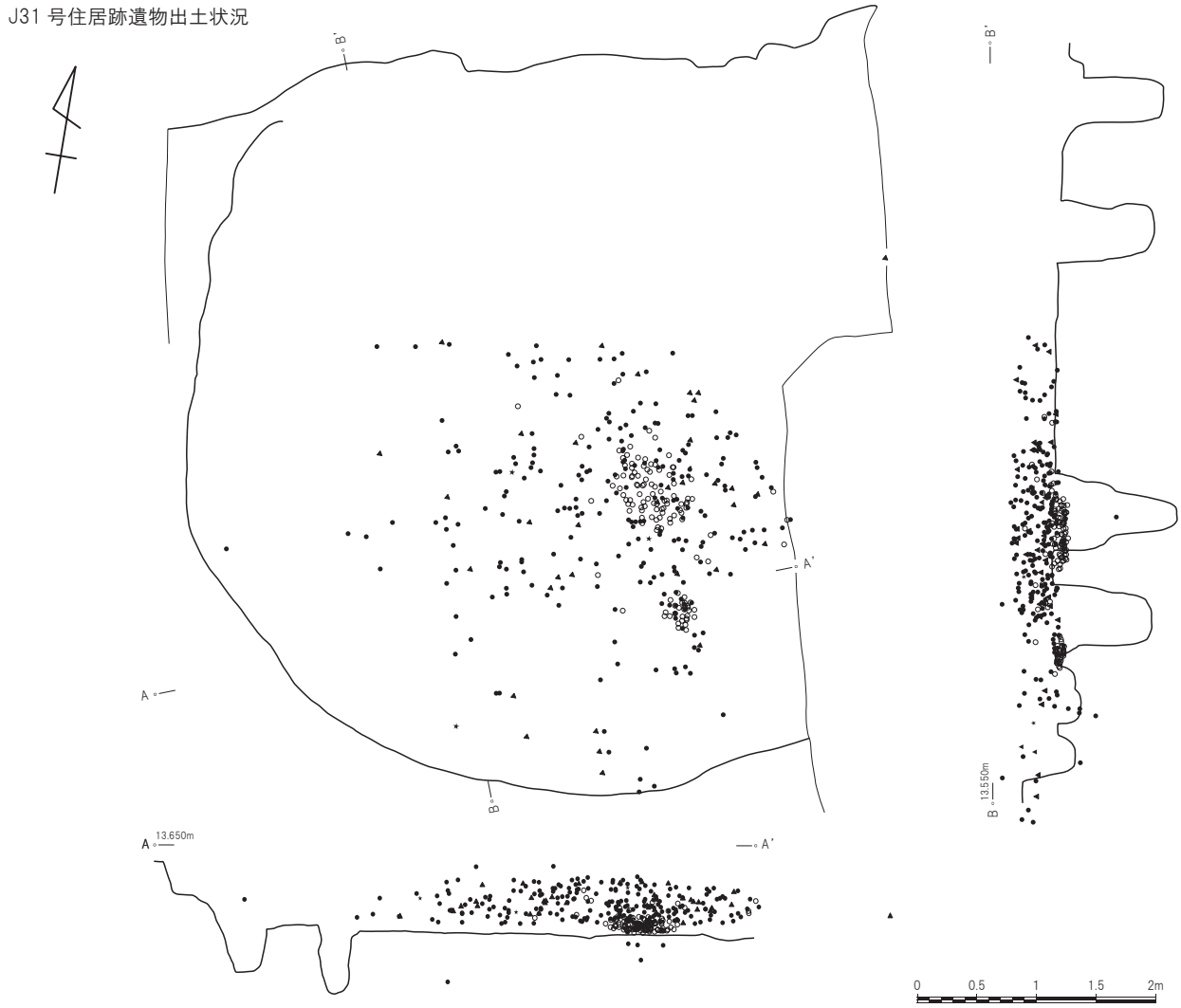
1. 黒色土　締り強、 粘性有、 2mm 以下ローム粒やや多く、 同炭化物少し含む
2. 暗褐色土　締り強、 粘性有、 ローム主体土にシミ状に黒褐色土少し含む
3. 暗褐色土　締り強、 粘性有、 ローム主体に 2cm 大ロームブロック少し、 2mm 以下ローム粒多く含む
4. 褐色土　締り強、 粘性有、 ロームブロック
5. 黒褐色土　締りやや弱、 粘性有、 2mm 以下ローム粒多く、 2cm 大ロームブロック少し含む、 3 層に含まれる土は似るが、 黒色土主体
6. 暗褐色土　締りやや弱、 粘性有、 3 層をベースにするが、 1cm 以下のロームが主体
7. 暗褐色土　締りやや弱、 粘性有、 ローム主体土で 1cm 大ロームブロック・2mm 以下ローム粒多く多く含む

P1・2・5・10 ～ 12

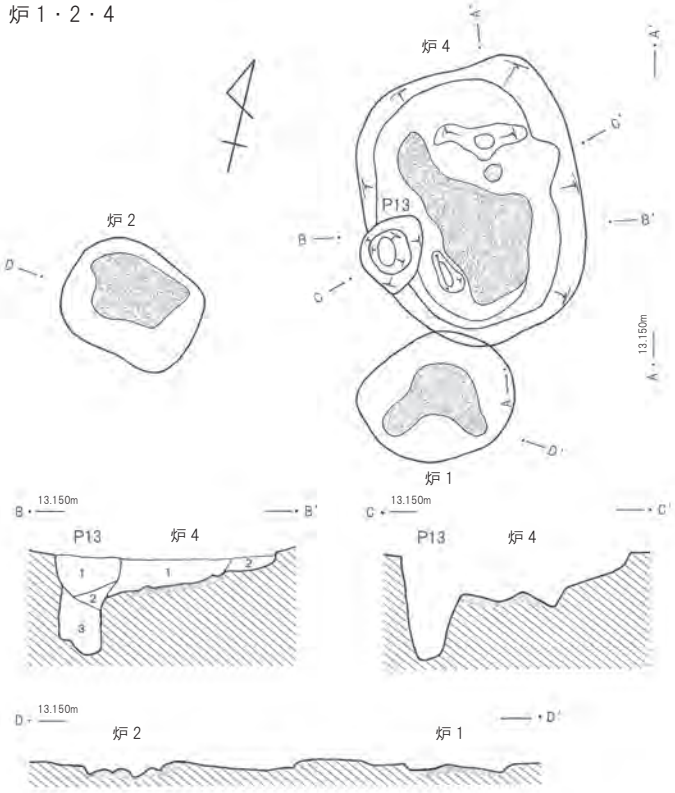
0. 撹乱
1. 黒色土　締りやや弱、 粘性有、 1mm 以下ローム粒やや多く含む、 同焼土少し、遺物も多く含む
2. 黒色土　締り弱、 粘性有、 1mm 以下ローム粒少し含む
3. 黒色土　締り弱、 粘性有、 1mm 以下ローム粒少し含む、 2 層より締り弱
4. 黒褐色土　締り弱、 粘性有、 ローム主体の崩落土で 1mm 以下ローム粒多く含む

第 11 図　ハケ遺跡第 7 地点 J31 号住居跡（1/60）

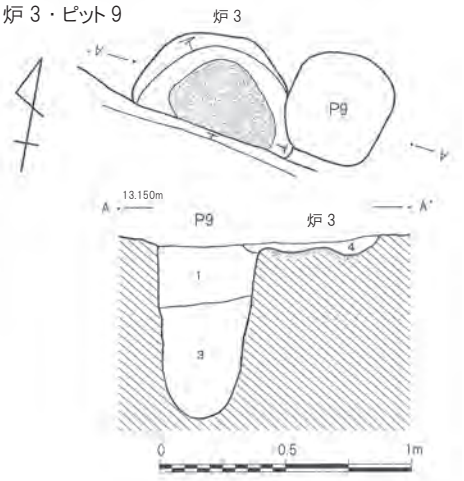
J31 号住居跡遺物出土状況



炉 1・2・4



炉 3・ピット 9



炉 3・P9・13

1. 黒色土　締り強、 粘性有、 黒色土主体に 2mm 以下ローム多く、 1cm 大ロームブロック多く含む
2. 暗褐色土　締りやや弱、 粘性有、 ローム主体の土で 3cm 以下ロームブロック多く、 1cm 以下シミ状黒色土極少し含む
3. 暗褐色土　締り弱、 粘性有、 2 層に類似する、 ブロック少ない
   1 層は貼床、 2・3 層は埋土
4. 褐色土　締り強、 粘性有、 貼床、 ソフトローム主体にシミ状に黒褐色土を斑状に少し含む

炉 4

1. 黒色土　締り強、 粘性有、 2mm 以下焼土粒多量に含む
2. 黒色土　締り強、 粘性有、 1mm 以下焼土粒極少し含む

第 12 図　ハケ遺跡第 7 地点 J31 号住居跡遺物出土状況（1/60）、炉（1/30）

【形状・規模】平面形態は楕円形を呈する。規模は、長軸（570）㎝、短軸（500）㎝、深さ 47 ㎝である。床面は皿状を呈し、炉の周辺は硬化する。

【炉】炉は地床炉で 2 ヶ所検出したが、規模と配置からみて炉 2 が主体的な炉とみられる。炉の形状は、炉 1 は楕円形、炉 2 は楕円形から隅丸長方形である。炉 1 の規模は長軸 127 ㎝、短軸 90 ㎝、深さ 22 ㎝である。炉 2 の規模は長軸 110 ㎝、短軸 90 ㎝、深さ 5 ㎝である。

【柱穴】柱穴は 15 本検出したが、主柱穴は P2･4 ～ 6･10・11 の 6 本柱である。P12・14 は主柱穴よりやや規模が小さいが対を成す。P12 は覆土に貼床状の堆積がみられ、あるいは拡張などによる古い柱穴の可能性も考えられる。

【遺物出土状況】床面のやや上から覆土層にかけて出土する。

（2）古代の住居跡

① H14 号住居跡

【位置・時期】本住居跡は調査区の中央部の西寄りに位置し、西側は調査区外に延び未検出である。8 世紀中頃。

【形状・規模・掘方】平面形態は長方形を呈する。規模は長軸（410）㎝、短軸 340 ㎝、深さ 42 ㎝である。住居跡の掘方は、竈の正面部分の地山ロームをやや高く残して「U」の字状に掘り込み、ローム混じりの黒褐色土で貼床を行う。竈正面の床は硬く締まるが他は軟い。貼床の厚さは約 20 ㎝で、柱穴はみられない。

【竈】住居跡北壁の中央部に構築され、竈の袖には僅かに構築部材の灰色粘土がみられる。長軸 135 ㎝、袖部の最大幅 135 ㎝である。竈内部は幅 68 ㎝、奥行き 90 ㎝で床面からの深さは 10 ㎝である。

【周溝】竈の左側と東壁から南壁にかけて存在し全周はしない。上幅 15 ～ 25 ㎝、下幅 7 ～ 16 ㎝、深さ 9.3 ～ 16.4 ㎝である。

【遺物出土状況】竈内にやや集中し、住居内の床面上から覆土層にかけて僅かに出土する。

② H15 号住居跡

【位置・時期】本住居跡は調査区中央部のやや南西寄りに位置する。9 世紀か。

【形状・規模・掘方】平面形態は長方形を呈する。規模は長軸 290 ㎝、短軸 275 ㎝、深さ 58 ㎝である。掘方は床面全体を 2 ～ 8 ㎝に浅く掘り込み、黒褐色土混じりのローム質土で貼床を行う。床は全体的に硬く締まり、柱穴と周溝はみられない。貼床の下から平面が楕円形で確認面径 40 × 32 ㎝、底径 14 × 7 ㎝、深さ 42.4 ㎝のピットを検出した。周溝と柱穴はみられない。

【竈】住居跡北壁の中央部に構築される、竈の北西部に撹乱がみられる。竈の右袖には僅かに構築部材の暗灰色粘土がみられる。長軸 116 ㎝、袖部の最大幅（115）㎝である。竈内部は幅（88）㎝、奥行き 80 ㎝で床面からの深さは 22.2 ㎝である。

【遺物出土状況】床面上から覆土層にかけて僅かにみられる。

③ H16 号住居跡

【位置・時期】本住居跡は調査区の南東部に位置し、J33 号住居跡、溝 1 と重複する。8 世紀後半。

【形状･規模･掘方】住居跡北東の隅の形態が不整形で、住居跡全体が方形とも長方形とも言えず、あるいは複数の住居跡が重なったものか拡張等によるものか不明であるが、今回は 1 軒の住居跡として報告する。

規模は長軸 395 ㎝、短軸 468 ㎝、深さ 78.7 ㎝である。掘方は全体に凹凸がみられ、貼床の厚さは 4 ～ 25 ㎝で、柱穴はみられない。

【竈】住居跡北壁の中央部に構築されるが、撹乱により左袖の一部と焚口の一部が残存するのみである。左袖部は地山ロームを削り出し、長さ 140 ㎝、幅 46 ㎝、高さ 50.5 ㎝である。焚口は不整形で 88 × 61 ㎝、深さ 17.8 ㎝である。

【周溝】竈部と住居北東隅以外はほぼ全周する。上幅 16 ～ 30 ㎝、下幅 10 ～ 18 ㎝、深さ 7.9 ～ 16.5 ㎝である。

【遺物出土状況】床面付近と覆土層全体から僅かに出土する。

④ H17 号住居跡

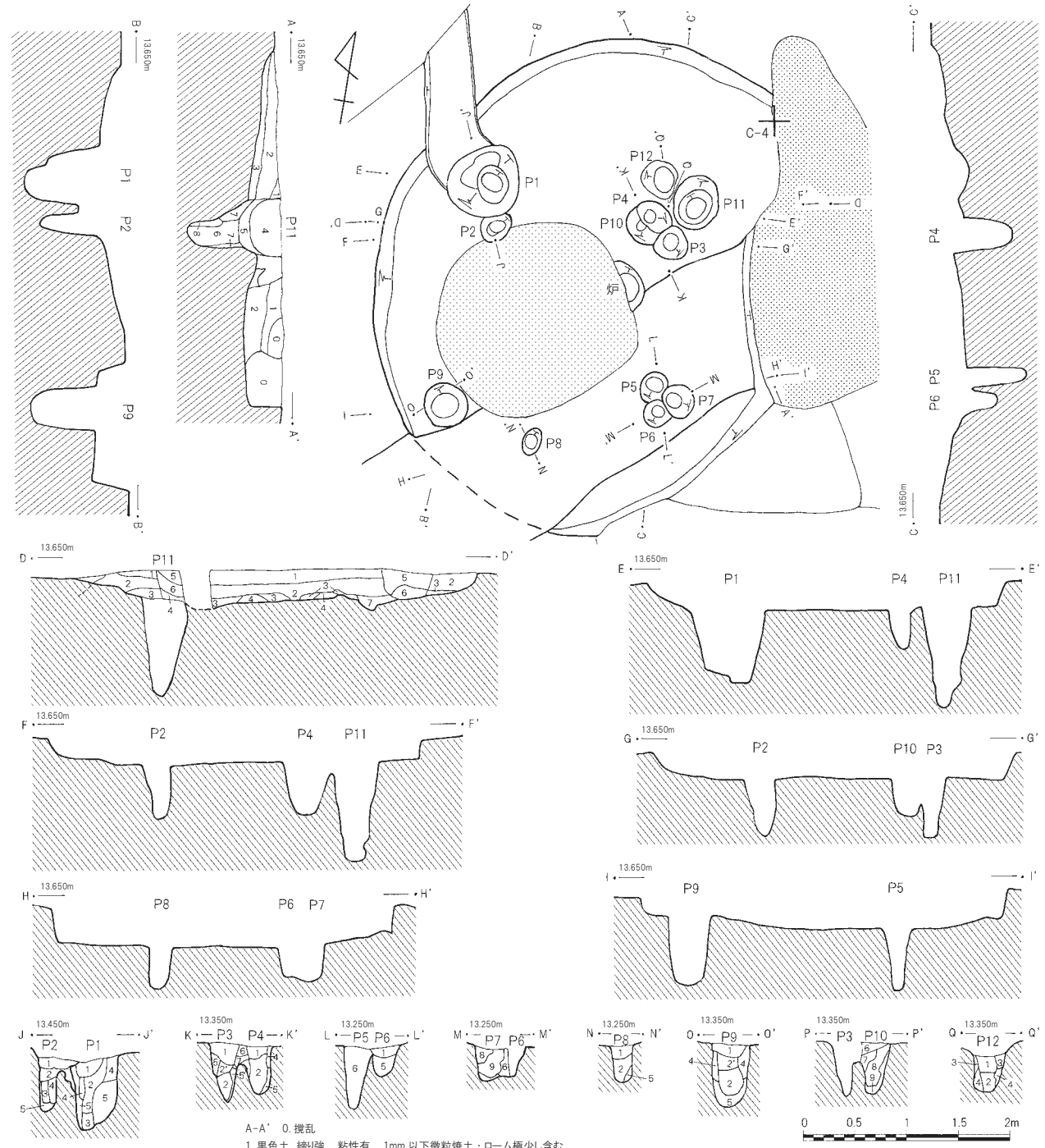
【位置・時期】本住居跡は調査区の北東部に位置する。J31 号住居跡と重複し、東側の大部分は隣地との境で未検出である。8 世紀前～中頃か。

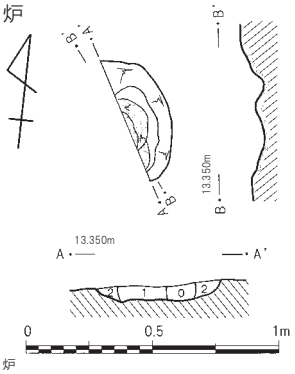
【形状・規模】住居跡の形状は不明である。検出部の規模は（300）㎝× 140 ㎝、深さ 48.9 ㎝である。周溝は上幅 10 ～ 16 ㎝、下幅 3 ～ 8 ㎝、深さ 4.7 ～ 13.3 ㎝である。竈と柱穴は未検出である。覆土層より土師器片が 1 点出土している。

（3）集石土坑・土坑・井戸・溝

①集石土坑

集石土坑は 4 基検出した。集石土坑 1 は J33 号住





A-A'　0. 撹乱
1. 黒色土　締り強、 粘性有、 1mm 以下微粒焼土・ローム極少し含む
2. 黒色土　締り強、 粘性有、 1 層よりやや黒褐色で 1mm 以下焼土・ローム粒少し含む
3. 黒褐色土　締り強、 粘性有、 1・2 層より黒褐色でやや明るく、 1cm 以下シミ状黒褐色土少し、 1mm 以下ローム・焼土粒やや多く含む
4. 黒褐色土　締り強、 粘性有、 黄灰色味が有る、 2mm 以下ローム粒少し含む
5. 黒褐色土　締り強、 粘性有、 上層より暗い、 3mm 以下ローム粒少し含む
6. 黒褐色土　締り強、 粘性有、 上層より暗い、 3mm 以下ローム粒少し含む
7. 黄灰色土　締り強、 粘性有、 シミ状に黒褐色土、 3mm 以下ローム粒少し含む
8. 黄灰色土　締り有、 粘性有、 3mm 以下ローム粒少し含む

D-D'　0. 撹乱
1. 黒褐色土　締り強、 粘性有、 2mm 以下ローム粒少し含む、 4cm 大礫僅かに含む
2. 黒色土　締り強、 粘性有、 ベースの土は 1 層より黒色味強い、 2mm 以下ローム粒少し含む、 上層より多め、 4cm 大礫僅かに含む
3. 黒褐色土　締り強、 粘性有、 シミ状にローム土を多く含み、 黄灰色味が有る、 3mm 以下ローム粒やや多く含む
4. 暗黄褐色土　締り強、 粘性有、 ローム土と黒色土が混ざりうっすら斑状を呈する、 ローム粒は少ない
5. 黒褐色土　締りやや弱、 粘性有、 灰色味が有る、 3mm 以下ローム粒少し含む
6. 黒褐色土　締りやや弱、 粘性有、 シミ状に暗褐色土を少し含む
7. ピット（本遺構と同時か古い）暗黄灰色土　締り強、 粘性有、 3mm 以下ローム粒やや多く、 5mm 以下炭化物少し含む、 ピット南壁際の覆土

ピット 1
1. 黒褐色土　締り強、 粘性有、 黄灰色味が有る、 ローム粒・炭化物・5mm 以下焼土少し含む
2. 黒褐色土　締り強、 粘性有、 5mm 以下ローム粒やや多く、 1cm ロームブロック・1cm 以下炭化物少し含む
2'. 黒褐色土　締り強、 粘性有、 黄灰色味が有る、 2mm 以下ローム粒・3mm 以下炭化物少し含む
3. 黒褐色土　締り強、 粘性有、 1cm ロームブロック少し含む
4. 黒褐色土　締り強、 粘性有、 5mm 以下ローム粒多く含む、 黄灰色味が有る
5. 黒褐色土　締り強、 粘性有、 1cm 以下ロームブロック・3mm 以下ローム粒多く含む、 黄灰色味が有る
6. 暗黄灰色土　締り強、 粘性有、 0.5mm 以下ローム粒少し含む
7. 暗黄灰色土　締り強、 粘性有、 5mm 以下ローム粒多く含む
8. 黒褐色土　締り強、 粘性有、 黄灰色味が有る、 3mm 以下ローム粒やや多く含む
9 暗黄灰色土　締り強、 粘性有、 ソフト質ローム土含む

ピット 2
1. 黄灰色土　締り強、 粘性有、 シミ状の 3mm 以下ローム粒やや多く含む
2. 黒褐色土　締り強、 粘性有、 1cm 以下ロームブロック少し含む
3. 黄褐色土　締り強、 粘性有、 黒褐色土ベースに 2cm 以下ロームブロック多く含む
4. 黄褐色土　締り強、 粘性有、 黄灰色土ベースにローム土主体
5. 黒褐色土　締り強、 粘性有、 黒褐色土ベースにうっすらシミ状にロームブロック多く含む、 締りは良い

ピット 12
1. 黒褐色土　締り強、 粘性有、 やや灰色味が有る、 3mm 以下ローム粒・炭化物やや多く含む
2. 黒褐色土　締り強、 粘性有、 上層より黒色味が強い、 5mm 以下ローム粒少し含む
3. 黄褐色土　締り強、 粘性有、 シミ状に黒褐色土多く含む
4. 暗黄灰色土　締り強、 粘性有、 シミ状にソフトローム土少し含む

炉
0. 撹乱　黒褐色土　締り強、 粘性有、 ローム粒・5mm 以下焼土少し含む
1. 黄褐色土　締り有、 粘性やや弱、 被熱してやや赤化している
2. 黒褐色土　締り強、 粘性有、 5mm 以下ローム粒多く含む

第 13 図　ハケ遺跡第 7 地点 J32 号住居跡（1/60）、炉（1/30）

第９表　ハケ遺跡第７地点 J31 ～ 33 号住居跡ピット一覧表
（単位 cm）

ピット番号	平面形態	確認面径	底径	深さ	備考
Ｊ31 住Ｐ１	円形	53 × 48	24 × 20	82.9	主柱穴
Ｊ31 住Ｐ２	楕円形	72 × 58	28 × 21	104.7	主柱穴
Ｊ31 住Ｐ３	円形	57 × 45	20 × 17	85.3	旧主柱穴
Ｊ31 住Ｐ４	円形	33 × 25	26 × 20	31.2	
Ｊ31 住Ｐ５	楕円形	66 × 49	41 × 21	80.9	主柱穴
Ｊ31 住Ｐ６	円形	(40)×34	30 × 25	52.0	旧主柱穴
Ｊ31 住Ｐ７	円形	50 ×(43)	32 × 25	67.9	旧主柱穴
Ｊ31 住Ｐ８	円形	51 × 44	27 × 25	75.8	旧主柱穴
Ｊ31 住Ｐ９	円形	45 × 40	17 × 11	73.4	旧主柱穴
Ｊ31 住P10	円形	45 × 38	28 × 24	44.6	主柱穴
Ｊ31 住P11	楕円形	61 × 44	51 × 38	55.4	主柱穴
Ｊ31 住P12	楕円形	28 × 17	13 × 13	24.0	
Ｊ31 住P13	不整形	33 × 23	11 × 8	42.0	
Ｊ32 住Ｐ１	円形	75 × 67	22 × 15	73.5	主柱穴
Ｊ32 住Ｐ２	楕円形	32 × 27	16 × 11	62.2	旧主柱穴
Ｊ32 住Ｐ３	楕円形	33 × 30	17 × 15	57.6	主柱穴
Ｊ32 住Ｐ４	楕円形	40 ×(32)	14 × 12	41.7	主柱穴
Ｊ32 住Ｐ５	楕円形	32 × 24	17 × 14	58.8	主柱穴
Ｊ32 住Ｐ６	円形	26 ×(23)	11 ×(11)	32.3	旧主柱穴
Ｊ32 住Ｐ７	円形	34 × 32	16 × 16	31.8	旧主柱穴
Ｊ32 住Ｐ８	楕円形	29 × 18	14 × 12	41.9	（主柱穴）
Ｊ32 住Ｐ９	円形	44 × 42	26 × 25	65.6	主柱穴
Ｊ32 住P10	（円形）	38 ×(20)	9 ×(7)	49.9	旧主柱穴
Ｊ32 住P11	楕円形	53 × 40	21 × 17	96.6	住居に伴わない
Ｊ32 住P12	円形	34 × 32	27 × 19	48.2	主柱穴
Ｊ33 住Ｐ１	円形	51 × 47	27 × 24	48.1	
Ｊ33 住Ｐ２	円形	39 × 35	27 × 20	59.9	主柱穴
Ｊ33 住Ｐ３	（楕円形）	65 ×(54)	(30)× 27	34.1	主柱穴
Ｊ33 住Ｐ４	楕円形	62 × 43	27 × 20	74.0	主柱穴
Ｊ33 住Ｐ５	楕円形	98 × 45	39 × 21	72.8	主柱穴
Ｊ33 住Ｐ６	円形	45 × 38	30 × 25	51.8	主柱穴
Ｊ33 住Ｐ７	円形	37 × 33	24 × 20	11.8	
Ｊ33 住Ｐ８	楕円形	44 × 31	21 × 12	15.2	
Ｊ33 住Ｐ９	楕円形	50 × 43	39 × 20	27.7	
Ｊ33 住P10	（円形）	42 ×(16)	26 ×(11)	(67.7)	主柱穴
Ｊ33 住P11	円形	53 × 47	27 × 14	74.2	
Ｊ33 住P12	円形	40 × 38	19 × 17	44.7	（主柱穴）
Ｊ33 住P13	円形	20 × 17	5 × 4	42.5	
Ｊ33 住P14	楕円形	44 × 28	21 × 19	45.2	（主柱穴）
Ｊ33 住P15	円形	25 × 22	9 × 8	38.6	

居跡、集石土坑３・４は J31 号住居跡と重複し、各住居跡より新しい。各集石土坑の詳細は第 10 表のとおりである。

②土坑

土坑は３基検出した。当初、土坑１とした遺構は井戸１に名称変更した。

土坑２は天井の一部が残存しており中近世の時期とみられる。土坑３・４は出土土器から縄文時代中期のものである。各土坑の詳細は第 11 表のとおりである。

③井戸

井戸は調査区の中央部に位置し、当初土坑１としたものである。確認面から 234.6 ㎝まで検出したが、底は未検出である。

平面形態は円形で、規模は確認面径 158 × 147 ㎝、底径 104 × 101 ㎝、深さ 234.6 ㎝である。

覆土層からはほぼ１体分の馬の骨と縄文土器片等が出土しているが、時期については古代以降と考えられる。馬の骨については附編に同定結果などを記した。今後は年代測定を実施し時期を明らかにしたい。

④溝

溝は４本検出した。溝３は土坑２と重複し、土層の観察から土坑２が新しい。その他の溝は、溝１がクランク状、溝２は直線的に調査区外に延びる。各溝の詳細は第 12 表のとおりである。

⑤遺構外遺物出土

J32 号住居跡の南側の遺構外からややまとまった遺物が出土している。出土範囲はやや地山ローム層を掘り込んだようにもみえるが、掘り込みが確認出来なかったので、今回は遺構外出土とする。

（４）遺物

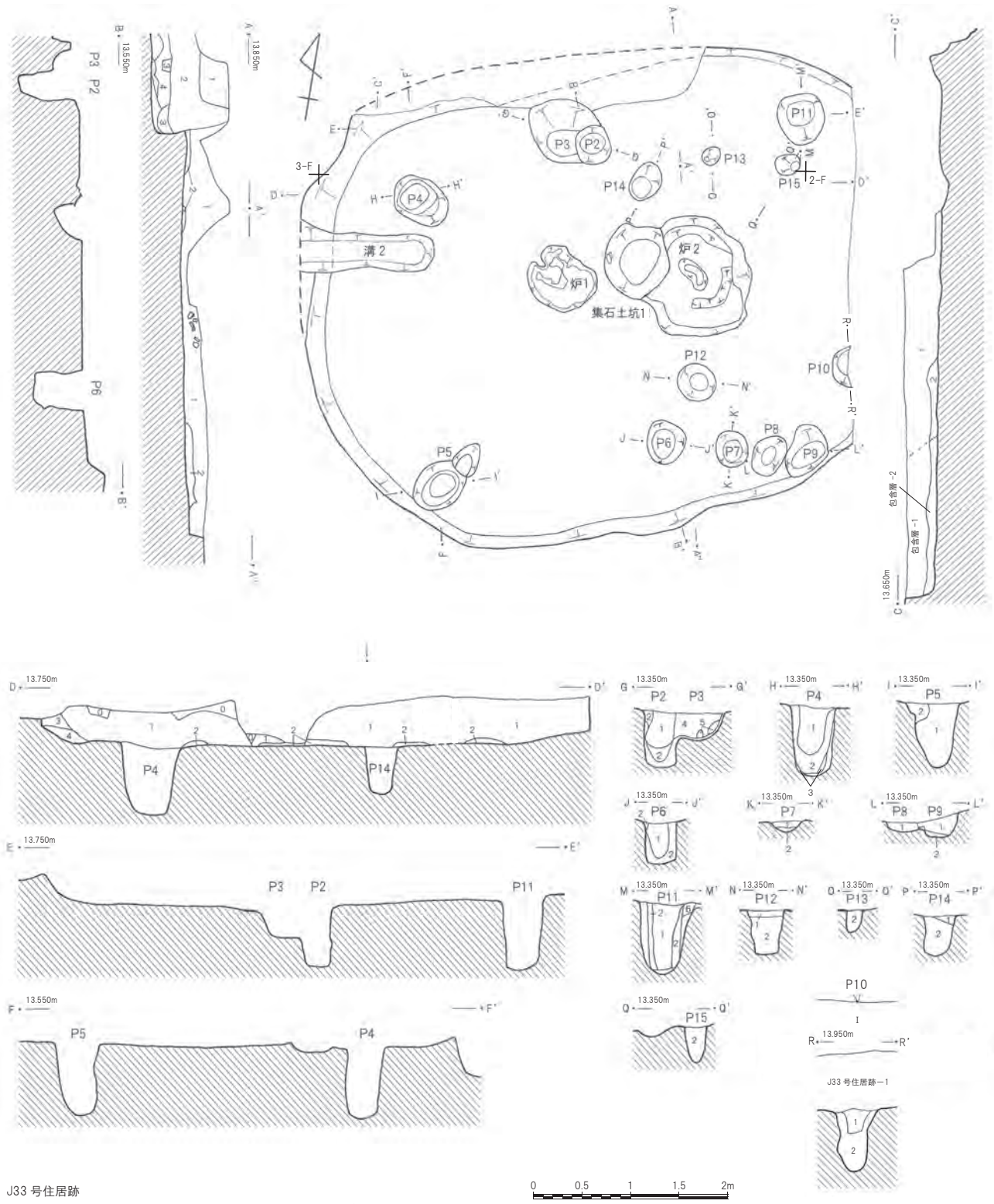
① J31 号住居跡出土土器（第 23 図 26 ～ 35）

１～５、21 ～ 35 が本住居跡に伴う時期で、７～ 20 は住居跡より古い段階の土器である。

１は口径 52 ㎝（残存 1/5）、大形の曽利系土器。地

第 10 表　ハケ遺跡第７地点集石土坑・出土礫観察表（単位 cm・個数・g（%））

番号	平面形態	確認面径	底径	深さ	備考	総点数	総重量	平均重量	破損数	完形数	焼成数	未焼成数	タール・煤付着数	タール・煤未付着数
1	円形	15.2 × 13.3	9.3 × 6.9	30.9	Ｊ33 住内	95	23,284.94	245.10	85 (89.5%)	10 (10.5%)	71 (74.7%)	24 (25.3%)	61 (64.2%)	34 (35.8%)
2	楕円形	77 × 66	46 × 32	15.8		112	13,721.85	122.51	82 (73.2%)	30 (26.8%)	67 (59.8%)	45 (40.2%)	53 (47.3%)	59 (52.7%)
3	楕円形	42 × 35	10 × 8	8.1	Ｊ31 住内	40	12,231.55	305.79	22 (55%)	18 (45%)	28 (70%)	12 (30%)	18 (45%)	22 (55%)
4	円形	76 × 70	48 × 39	7.7	Ｊ31 住内	14	2,806.65	200.48	13 (92.9%)	1 (7.1%)	6 (42.9%)	8 (57.1%)	5 (35.7%)	9 (64.3%)



J33 号住居跡

1. 黒色土　締り強、 粘性有、 1mm 以下ローム粒、 焼土粒少し、 遺物多く含む
2. 暗褐色土　締り強、 粘性有、 ローム質の暗褐色土と 1 層の黒褐色土を斑状に含む
3. 黒褐色土　締り強、 粘性有、 1 層より明るく地山包含層に類似する層でほぼ何も含まない
4. 暗褐色土　締り強、 粘性有、 3 層より更に明るくソフトロームに近いが遺物を含む、 ソフトローム崩落土

包含層

1. 黒褐色土　締り強、 粘性有、 1mm 以下ローム・焼土極少し含む、 遺物含む
2. 黒褐色土　締り強、 粘性有、 黒褐色土主体に 2cm 以下シミ状暗褐色土多く、 1mm 以下ローム・焼土粒極少し含む

P2 ～ 6・9 ～ 11

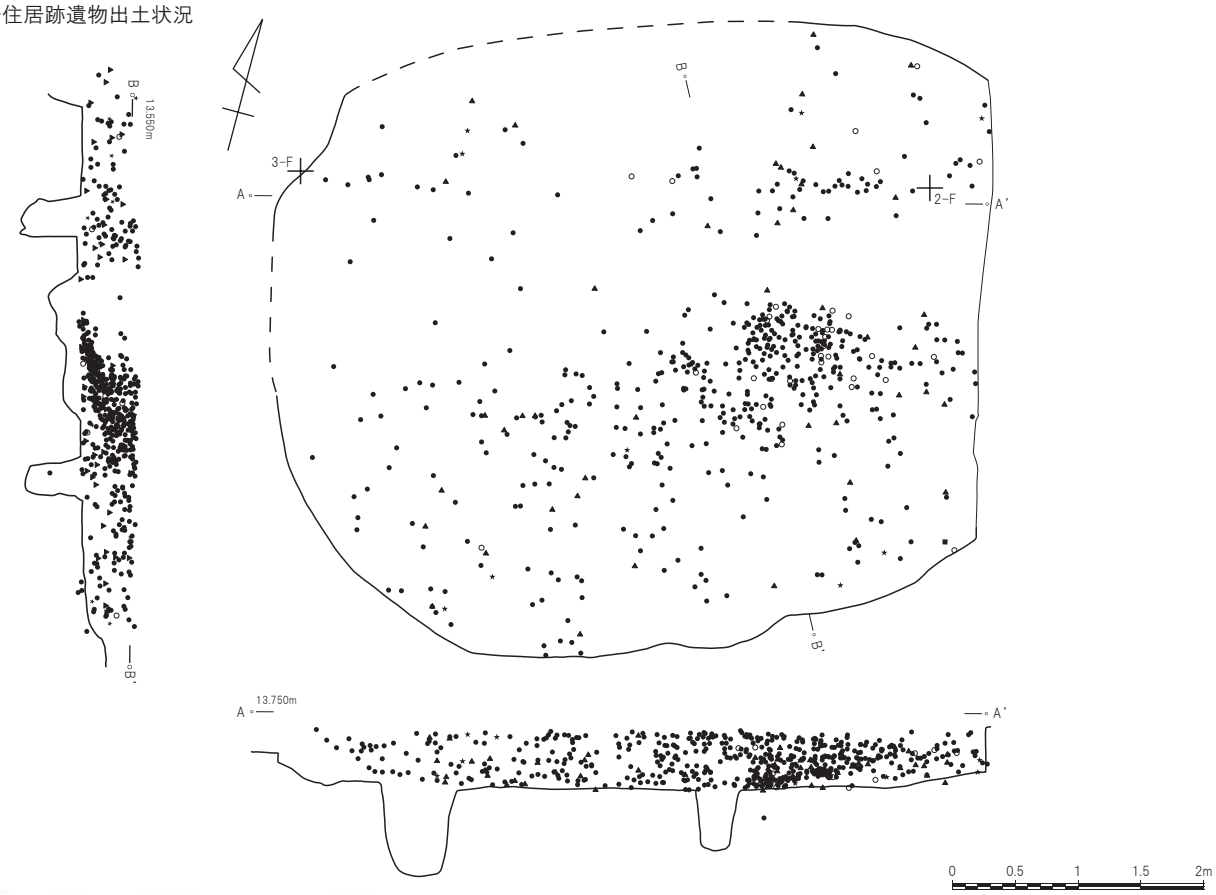
1. 黒褐色土　締りやや強、 粘性有、 1mm 大ローム多く含む、 同焼土・炭化物少し含む、 P4 では 2cm 大ロームブロックをやや多く含む
2. 暗褐色土　締りやや強、 粘性有、 2mm 以下ローム多く含む、 焼土・炭化物ほとんど含まない、 P4 では 2cm 以下ロームブロックやや多く含む
3. 暗褐色土　締りやや強、 粘性有、 ローム主体で 2mm 以下粒状ロームやシミ状に黒褐色土を含む（P4 ではほぼローム主体だが P6 では黒褐色土含む）
4. 黒褐色土　締りやや強、 粘性有、 1 層よりやや明るく、 1cm 大ロームブロック少し、 2mm 以下ローム粒多く（1 層程度）含む、 1mm 大焼土極少し、 2mm 大炭化物少し含む
5. 暗褐色土　締りやや強、 粘性有、 ロームブロック主体に暗褐色土含む、 焼土・炭化物含まない
6. 暗褐色土　締り強、 粘性有、 1cm 大ロームブロックと暗褐色土の混合（貼床）

P7・8・12 ～ 15

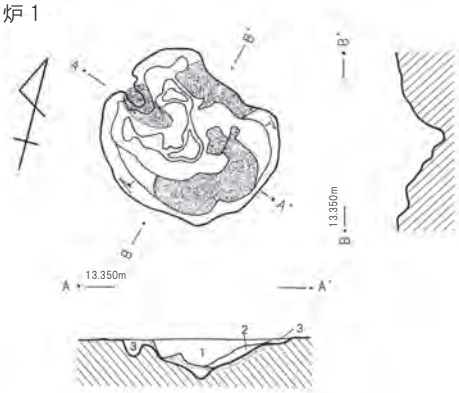
1. 黒褐色土　締り強、 粘性有、 1cm 以下シミ状ローム多く、 2mm 以下ローム粒多く含む、 焼土・炭化物含まない
2. 暗褐色土　締り強、 粘性有、 1cm 以下黒褐色土とロームブロックの混合土、 焼土・炭化物含まない

第 14 図　ハケ遺跡第 7 地点 J33 号住居跡（1/60）

J33 号住居跡遺物出土状況

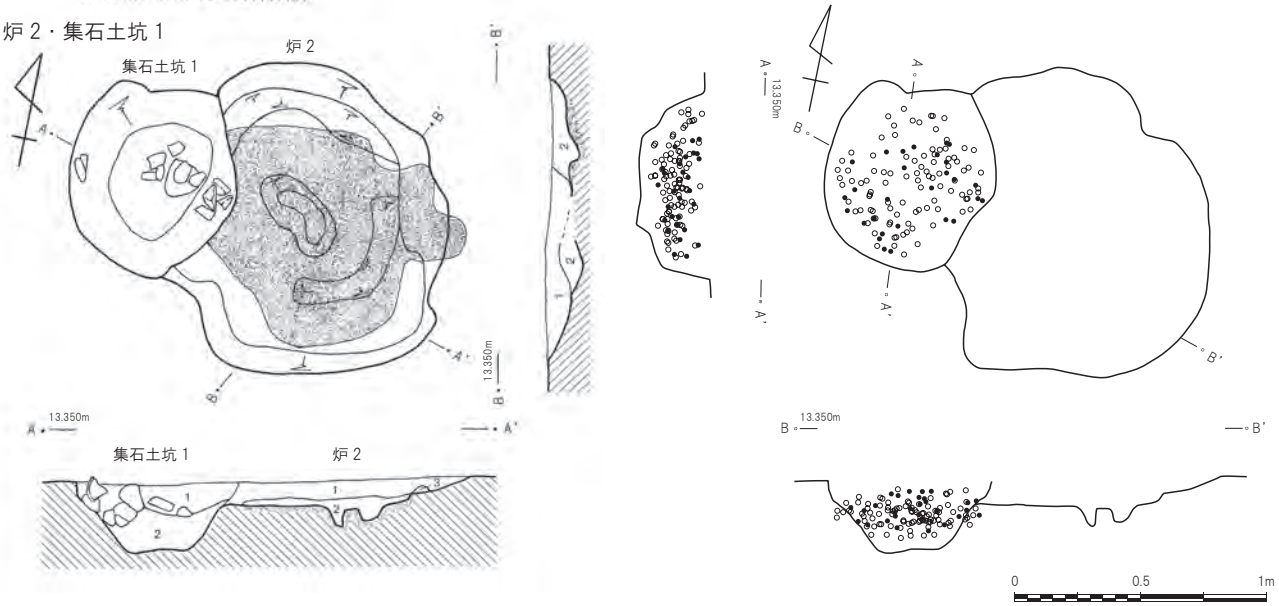


炉 1



炉 1
1. 黒褐色土　締り強、 粘性有、 2mm 以下焼土粒多量、 2mm 大ローム粒少し含む
2. 暗赤褐色土　締り強、 粘性有、 2mm 以下焼土粒やや多く含む
3. 暗赤褐色土　締り強、 粘性有、 ローム又はロームブロックで西側は赤褐色に焼けている
炉 2
1. 黒色土　締り強、 粘性有、 2mm 以下赤褐色焼土・ローム粒少し含む、 炭化物ほとんど見られない
2. 黒赤褐色土　締り強、 粘性有、 5mm 以下赤褐色焼土・ローム粒多量に含む、 2mm 以下シミ状炭化物極少し含む
3. 暗褐色土　締り有、 粘性有、 大形ロームブロック含む、 焼土・炭化物含まない
集石土坑 1
1. 黒褐色土　1mm 大ローム粒・焼土粒少し含む
2. 黒色土　2mm 以下ローム粒やや多く含む、 1mm 以下焼土粒極少し、 同炭化物・2cm 大炭化物少し含む

炉 2・集石土坑 1



第 15 図　ハケ遺跡第 7 地点 J33 号住居跡遺物出土状況（1/60）、炉・集石土坑（1/30）

第 11 表　ハケ遺跡第７地点土坑一覧表（単位 cm）

No.	平面形態	確認面径	底径	深さ	備考
2	長方形	201 × 124	178 × 120	84.7	天井残存
3	不明	158 ×(100)	(88)× 80	89.6	
4	不明	(189)× 167	35 × 31	34.8	

第 12 表　ハケ遺跡第７地点溝一覧表（単位 cm）

No.	断面形態	上幅	下幅	深さ	備考
溝 1	「U」字形	66 ～ 152	42 ～ 118	43.2	旧溝 3 含む
溝 2	逆台形	98 ～ 138	10 ～ 86	60	旧溝 1 含む
溝 3	浅い「U」字形	110 ～ 150	70 ～ 86	47.1	旧溝 5
溝 4	浅い「U」字形	52 ～ 108	26 ～ 54	29.4	

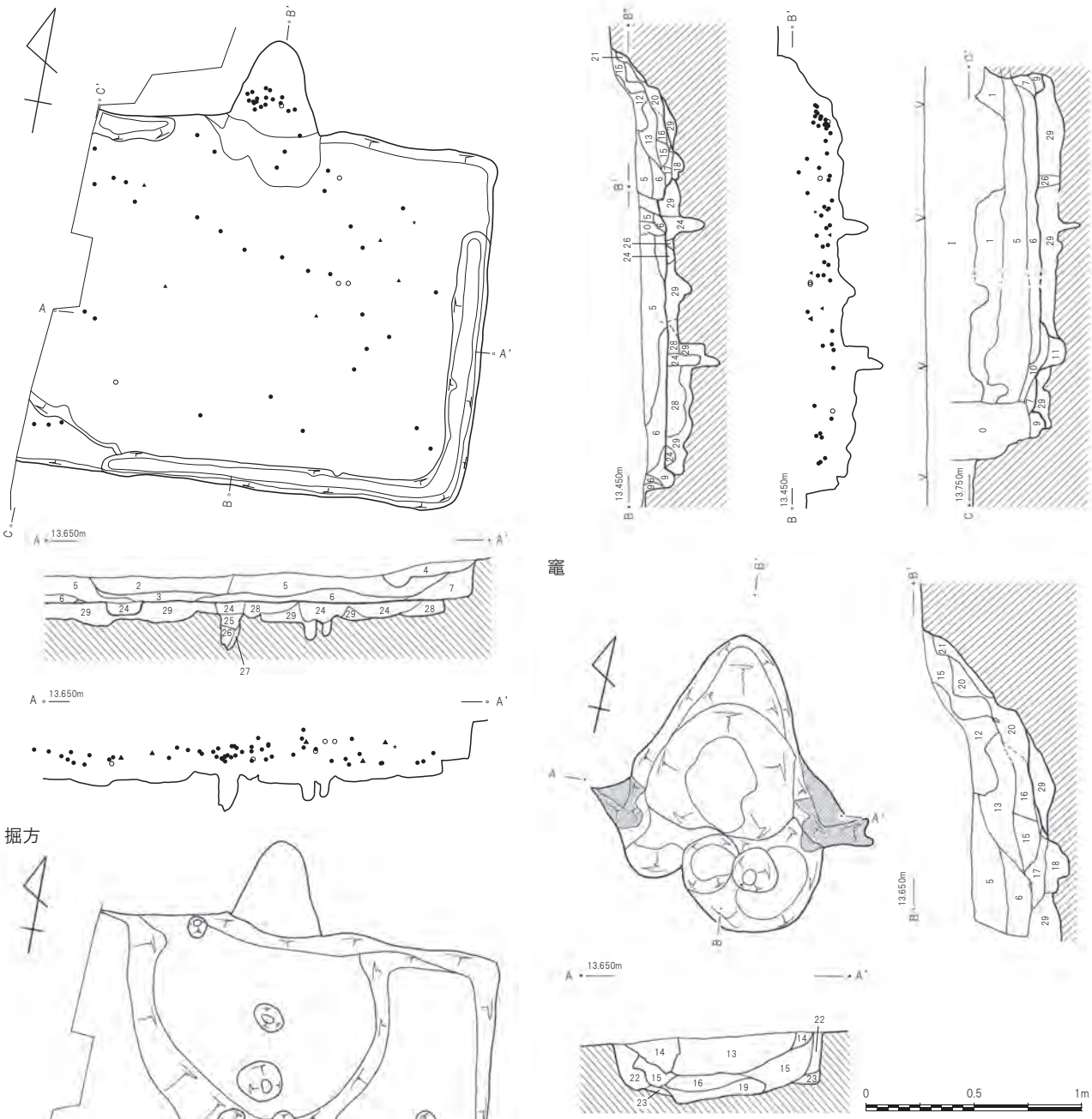
文は Rl 撚糸文、括れ部に蛇行隆帯、胴部に２本単位の懸垂文と１本の蛇行懸垂文。2 は口径 15 ㎝（残存 1/2）の小形土器。全面 RL 単節縄文を縦方向に施文、一部斜位施文とし縄文の条が縦になる。3 は口唇部が欠落、器面は加熱を受けたように脆い。口径 22.5 ㎝(現存 1/5)、渦巻文と楕円文を交互に（おそらく６単位）配し、胴部に半截竹管の平行線で懸垂文を施文、地文 RL 単節。4 は口径 28 ㎝（現存 1/2)、地文 Rl 撚糸文、「フ」状に突出した渦巻文と、直下に３本単位の短い懸垂文と楕円文で組み合わせた６単位の口縁部文様帯を構成。頸部は２本単位の隆帯で区画、胴部は 1/3 ほど残存、2 本単位の直線懸垂文と１本の蛇行懸垂文。5 は最大径 46 ㎝の浅鉢形土器（現存 1/8 程)。外湾する無文の口縁部と「く」字状の文様施文部の境に交互刺突、隆帯で枠状の楕円文とその脇に先端が退化した連結渦巻文に、地文は縦の沈線。6 は有孔鍔付土器で、口径 24 ㎝（現存 1/8)。赤褐色で胎土は非常に堅緻、内面は横位のヘラ磨き、外面は無文口縁部で縦にヘラ磨きを施す。幅４㎜の細い沈線の区画内に複節 RLR を充填文、大きな渦巻文を施文する。

7 ～ 13 は早期・前期の土器。7 は内外面とも縦方向に貝殻条痕を施文する茅山系の土器。8 は諸磯 a 式、暗褐色で繊維は含まない。縄文 RL の原体を RL の原体に付加する、詳細不明。9・10 は大形爪形文の諸磯 a 式。11 は諸磯 b 式の大きく内湾した口縁部片。細い粘土紐の上に刻みを施す。12・13 は諸磯 c 式土器。12 の地文は半截竹管の集合条線で、半円形の突起を貼付る。13 も地文は集合条線である。

14 ～ 20 は中期の土器。14 は細い連続爪形文の勝坂Ⅰ式土器で浅鉢形。内外面ともによく研磨する。15 は楕円の隆帯の脇に幅広の爪形文、幅狭三角爪形文などが多用された勝坂Ⅰ式（新)。16 は浅鉢形。胎土に多量の雲母を含み、楕円の隆帯の脇を半截竹管で平行沈線を施した阿玉台式。17 は口縁に平行にキャタピラ文を密に施文、中央の隆帯脇にも施文、いわゆる抽象文。地文は無文だが輪積痕の接合痕が残され、凸部に指頭押圧文が斜位に等間隔で連続して施文。阿玉台の指頭痕に近いが雲母は含まない、勝坂Ⅱ（古)。18 は隆帯の脇に連続幅広三角文を施し、隆帯上には刻みがある、勝坂Ⅱ（古）式。19 は RL の単節を施したソロバン玉状器形の底部近く、いわゆるパネル文の胴部区画文。区画文の境に「ハ」字状の刻みを施す、勝坂Ⅱ（新）式。20 は無文口縁部に鍔状隆帯を貼り付ける。

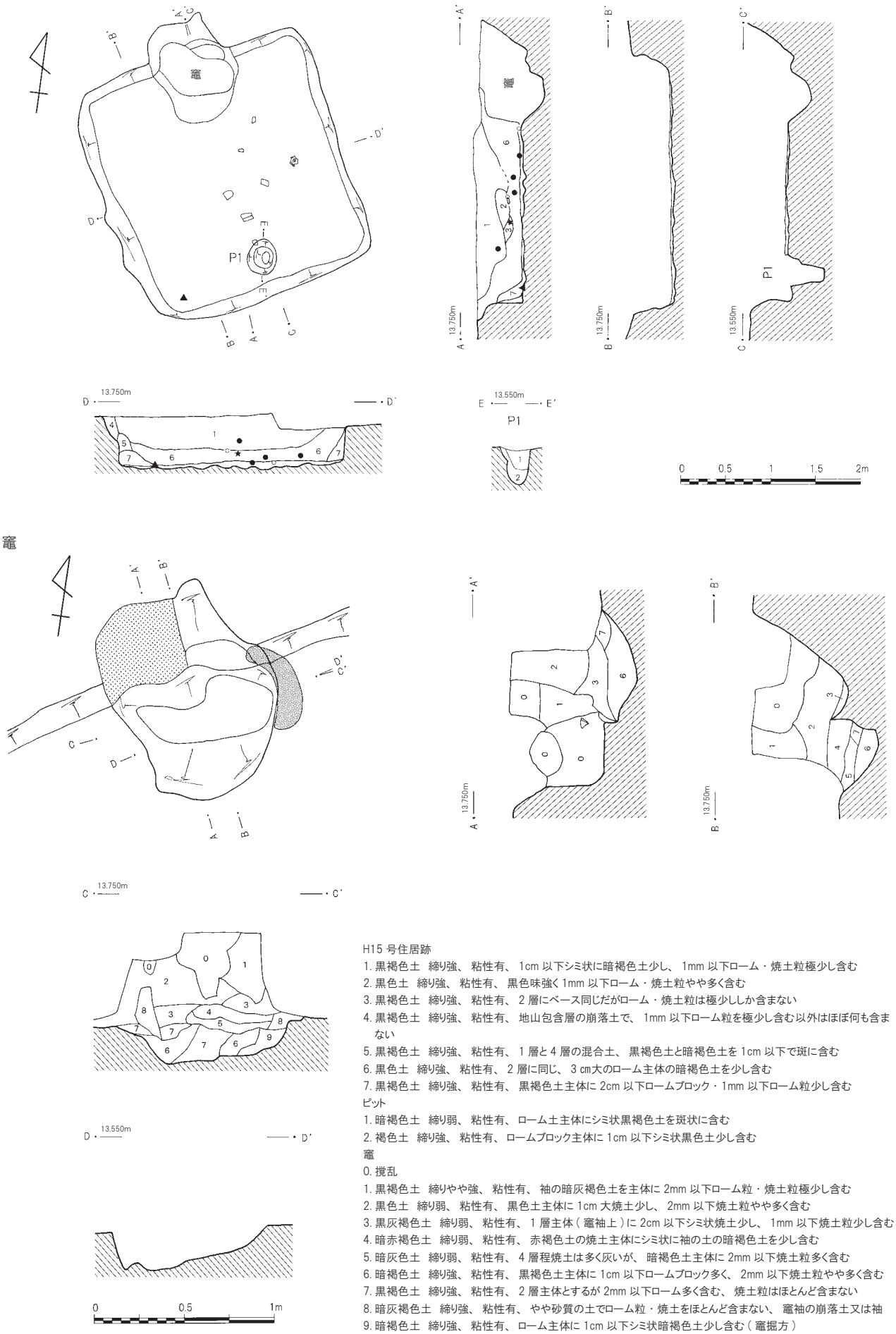
21 ～ 26 はキャリパー状の加曽利 E 式土器群。21 は地文に無節 r 撚糸文、粘土紐をクランク状に S 字状文を貼り付ける。22 は地文単節 LR、粘土紐で大きな S 字状文を付け、粘土紐両側のナゾリが深い。23 は地文 Lr 撚糸文で、粘土紐で渦巻文を付ける。24・25 は、粘土紐で渦巻きを「フ」字状に突出した突出渦巻文である。26 も粘土紐で S 字状の渦巻きを配し、渦巻が文様区画の横位の隆帯に接する。27 は加曽利 E 系の胴部片で、括れ部に二本隆帯で区画。胴部は地文単節 RL に緩い蛇行懸垂文が付く。28 は地文単節 RL に二本隆帯で直線懸垂文、大きな蛇行懸垂文を付ける。

29 ～ 32 は曽利系土器。29 は口径約 36 ㎝（現存約 1/8)、裏面に黒斑が有り明茶色。30 は地文単節 RL に二本隆帯で小形蛇行懸垂文を貼付。31 は暗褐色で大形の曽利Ⅱ式系。破片は多いが接合しない。口縁部は地文半截竹管による集合沈線で緩い弧状を施す。



0. 撹乱
1. 黒褐色土　締り有、 粘性やや弱、 3mm 以下ローム粒少し含む、 1 層より黒色味強い
2. 黒色土　締りやや弱、 粘性有、 2mm 以下ローム粒やや多く含む、 焼土含まない
3. 黒色土　締りやや弱、 粘性有、 1層にほぼ同じ、 やや締りが強い、 ローム粒は1層に同じ
4. 黒褐色土　締りやや強、 粘性有、 4 層よりローム粒が小さくやや少ない以外はほぼ同じ
5. 黒褐色土　締りやや強、 粘性有、 5mm 以下ローム粒多く含む、 焼土・炭化物ほとんど含まない
6. 黒褐色土　締りやや強、 粘性有、 4層よりローム粒やや少ない以外は 4 層に同じ
7. 黒褐色土　締りやや強、 粘性有、 4・5 層より 1cm 以下ローム粒多く含む、 三角堆積
8. 黒褐色土　締りやや強、 粘性有、 1mm 以下ローム粒極少し含む
9. 暗褐色土　締りやや弱、 粘性有、 ローム主体にシミ状に黒褐色土を斑状に多く含む、 6 層よりロームが多い
10. 黒褐色土　締りやや強、 粘性有、 5mm 以下焼土をやや多く含む、 1cm 以下ローム ブロック・粒少し含む
11. 黒褐色土　締り弱、 粘性やや弱、 3cm 以下ロームブロック・3mm 以下ローム粒少し含む
12. 黒褐色土　締り有、 粘性有、 3mm 以下ローム粒・灰色粘土粒多く含む
13. 黒色土　締り強、 粘性有、 シミ状に灰色粘土（シルト質）・3mm 以下ローム粒やや多く、 5mm 以下焼土少し含む
14 黒灰色土　締り強、 粘性有、 黒色土に灰色粘土が多く混ざる、 平均 1cm 以下の焼土やや多く含む
15. 明黄灰色土　締り強、 粘性有、 灰色粘土主体、 シミ状に黒色土・5mm 以下焼土少し含む、 うっすらシミ状に赤褐色土含む
16. 赤褐色土　締り強、 粘性有、 灰色粘土混じりの焼土（シルト質）
17. 明黄灰褐色土　締り強、 粘性やや弱、 5mm 以下ローム粒多く含む
18. 黄褐色土　締り強、 粘性有、 シミ状に黒褐色土混ざるローム土主体、 5mm 以下ローム粒多く含む
19. 赤褐色土　締り有、 粘性弱、 暗褐色土主体に 2cm 以下の硬化した焼土ブロック・ロームブロックを多く含む
20. 黒色土　締り有、 粘性有、 1cm 大焼土ブロックやや多く含む
21. 暗褐色土　締り強、 粘性有、 2mm いか焼土少し含むが混入物は少ない
22. 黄灰色土　締り有、 粘性有、 灰色粘土、 シミ状に黒褐色土やや多く、 5mm 以下焼土少し混入（粘土の遺存状態は良くない）
23. 黄褐色土　締り強、 粘性有、 黒褐色土主体に 3cm 以下ローム ブロック多く含む
24. 黒褐色土　締り強、 粘性有、 6cm 以下ローム ブロック・5mm 以下ローム粒やや多く含む
25. 黒褐色土　締り強、 粘性有、 2cm 以下ローム ブロックやや多く、 3mm 以下ローム粒多く含む
26. 黒褐色土　締り強、 粘性有、 1cm 以下ローム ブロック・粒少し含む
27. 黄褐色土　締り強、 粘性有、 黒褐色土をシミ状にやや多く含む
28. 黄灰色土　締り強、 粘性有、 2cm 以下ローム ブロックやや多く、 5mm 以下ローム粒多く含む
29. 黄褐色土　締り強、 粘性有、 黒褐色土主体に大型の 7cm 以下ローム ブロック・5mm 以下ローム粒多く含む

第 16 図　ハケ遺跡第 7 地点 H14 号住居跡・掘方（1/60）、竈（1/30）

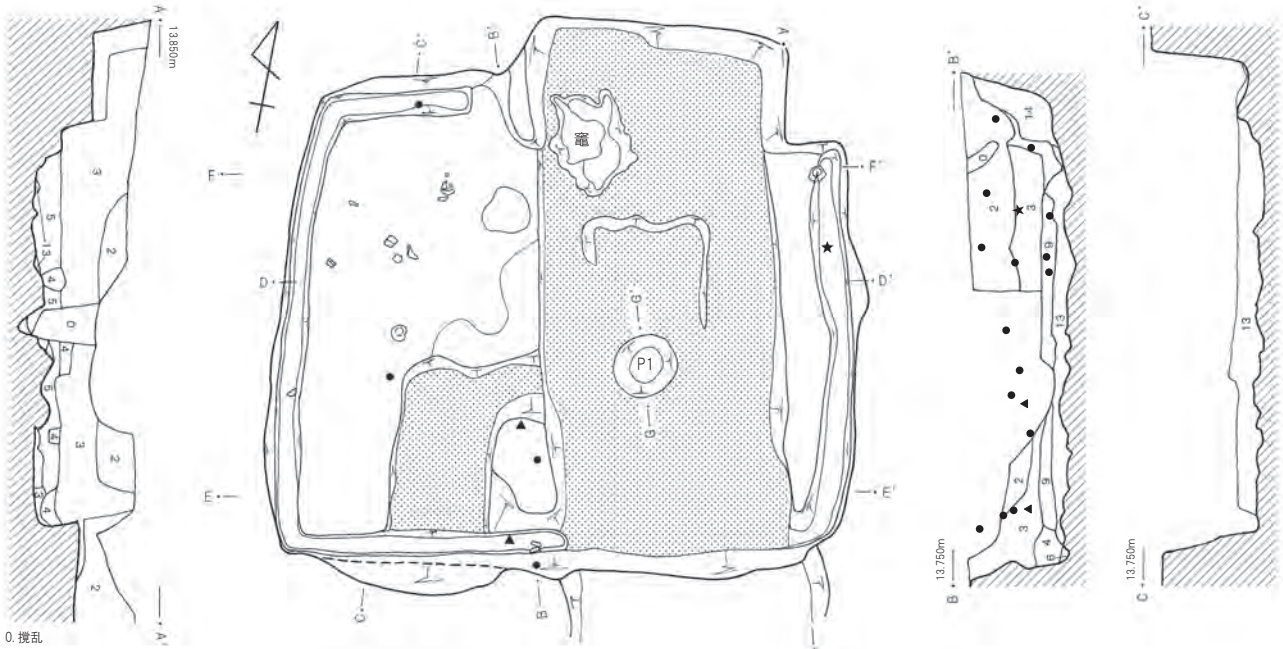


H15 号住居跡
1. 黒褐色土　締り強、 粘性有、 1cm 以下シミ状に暗褐色土少し、 1mm 以下ローム・焼土粒極少し含む
2. 黒色土　締り強、 粘性有、 黒色味強く 1mm 以下ローム・焼土粒やや多く含む
3. 黒褐色土　締り強、 粘性有、 2 層にベース同じだがローム・焼土粒は極少ししか含まない
4. 黒褐色土　締り強、 粘性有、 地山包含層の崩落土で、 1mm 以下ローム粒を極少し含む以外はほぼ何も含まない
5. 黒褐色土　締り強、 粘性有、 1 層と 4 層の混合土、 黒褐色土と暗褐色土を 1cm 以下で斑に含む
6. 黒色土　締り強、 粘性有、 2 層に同じ、 3 ㎝大のローム主体の暗褐色土を少し含む
7. 黒褐色土　締り強、 粘性有、 黒褐色土主体に 2cm 以下ロームブロック・1mm 以下ローム粒少し含む

ピット
1. 暗褐色土　締り弱、 粘性有、ローム土主体にシミ状黒褐色土を斑状に含む
2. 褐色土　締り強、 粘性有、ロームブロック主体に 1cm 以下シミ状黒色土少し含む

竈
0. 撹乱
1. 黒褐色土　締りやや強、 粘性有、 袖の暗灰褐色土を主体に 2mm 以下ローム粒・焼土粒極少し含む
2. 黒色土　締り弱、 粘性有、 黒色土主体に 1cm 大焼土少し、 2mm 以下焼土粒やや多く含む
3. 黒灰褐色土　締り弱、 粘性有、 1 層主体 (竈袖上) に 2cm 以下シミ状焼土少し、 1mm 以下焼土粒少し含む
4. 暗赤褐色土　締り弱、 粘性有、 赤褐色土の焼土主体にシミ状に袖の土の暗褐色土を少し含む
5. 暗灰色土　締り弱、 粘性有、 4 層程焼土は多く灰いが、 暗褐色土主体に 2mm 以下焼土粒多く含む
6. 暗褐色土　締り強、 粘性有、 黒褐色土主体に 1cm 以下ロームブロック多く、 2mm 以下焼土粒やや多く含む
7. 黒褐色土　締り強、 粘性有、 2 層主体とするが 2mm 以下ローム多く含む、 焼土粒はほとんど含まない
8. 暗灰褐色土　締り強、 粘性有、 やや砂質の土でローム粒・焼土をほとんど含まない、 竈袖の崩落土又は袖
9. 暗褐色土　締り強、 粘性有、 ローム主体に 1cm 以下シミ状暗褐色土少し含む (竈掘方)

第 17 図　ハケ遺跡第 7 地点 H15 号住居跡（1/60）、竈（1/30）

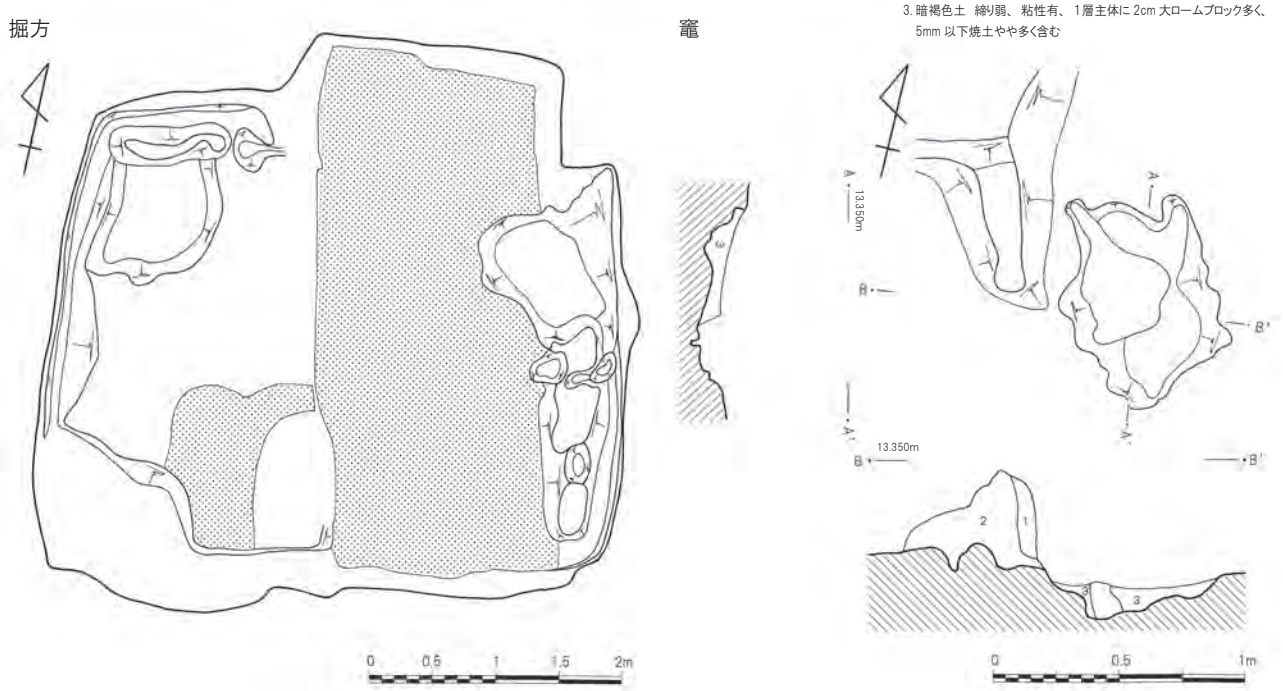


0. 撹乱
1. 黒褐色土　締り弱、粘性有、1 層主体に 2cm 以下ロームブロック多く、1mm 以下ローム粒・焼土やや多く、同炭化物少し含む
2. 黒色土　締り弱、粘性有、1cm 以下ローム粒少し、1mm 大焼土極少し含む
3. 黒色土　締り弱、粘性有、1mm 以下ローム粒極少し、同焼土少し含む
4. 黒色土　締り弱、粘性有、5mm 以下ローム粒多く含む、焼土はほとんど含まない、1・2 層より黒色で、ローム多く含む（周溝）
5. 黒褐色土　締り弱、粘性有、2cm 以下ロームブロックと黒色土の混合土（掘方か ?）
6. 暗褐色土　締り弱、粘性有、黒褐色土と暗褐色土ロームの混合（周溝）
7. 黒褐色土　締り弱、粘性有、黒褐色土と暗褐色土を斑状に含む
8. 褐色土　締り強、粘性有、ロームブロック主体に暗褐色土含む
9. 黒色土　締り強、粘性有、2cm 以下ロームブロック少し、5mm 以下ローム粒やや多く含む、硬化面上面に 5cm以下焼土多く広がる、貼床
10. 暗褐色土　締り弱、粘性有、黒褐色土主体に 2cm 以下ローム多量に含む、木の根等で弱くなった可能性有り
11. 暗褐色土　締り強、粘性有、暗褐色土主体に 1cm 以下ロームブロック多量に含む、貼床
12. 暗褐色土　ロームブロックと黒褐色土を斑状に含む
13. 暗褐色土　締り弱、粘性有、暗褐色土主体に 1cm 以下黒色土・ロームブロックを斑状に多量に含む（下の住居の掘方の上）
14. 地山ローム、竈袖

P1
1. 褐色土　締り強、粘性有、やや暗みの有るローム主体に 1cm 以下シミ状黒褐色土少し含む、焼土・炭化物含まない
2. 暗褐色土　締り強、粘性有、1 層より更に暗く、シミ状黒褐色土多く含み、ローム粒 5mm 大が目立つ
3. 黒褐色土　締り強、粘性有、黒褐色土主体に 5mm 以下ローム粒多く含む
4. 褐色土　締り強、粘性有、ローム主体にシミ状に黒褐色土少し含む、3 層よりロームが多くなる

1 から 3 層に下層になるに従い黒褐色土が増す、4 層はほぼ 3 層に同じ溝 1

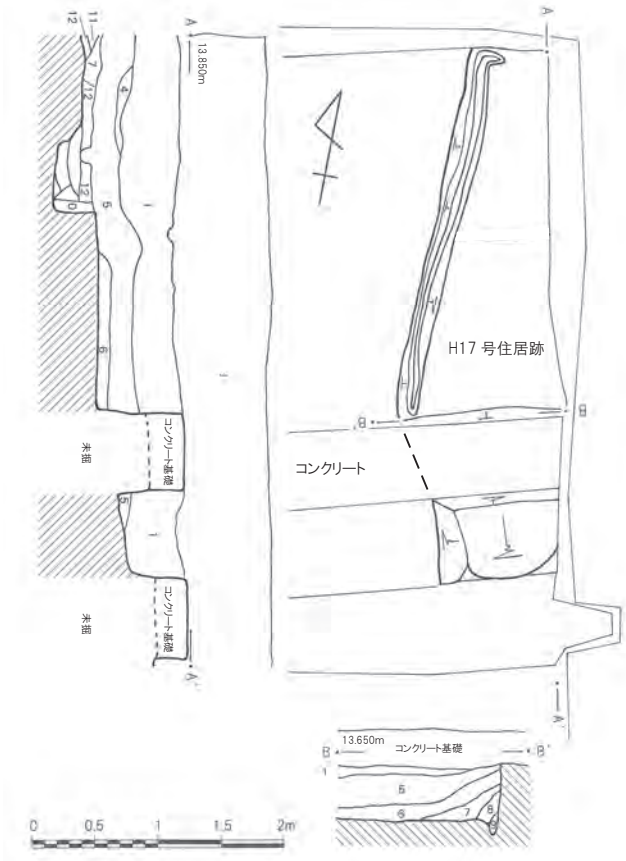
竈
1. 暗褐色土　締りやや強、粘性有、5mm 以下焼土少し、同黒褐色土極少し含む（竈袖）
2. 暗褐色土＋黒褐色土　締り弱、粘性有、1層主体に 2cm 以下シミ状黒褐色土・1cm 以下焼土・ロームブロック少し含む（竈崩落土）
3. 暗褐色土　締り弱、粘性有、1層主体に 2cm 大ロームブロック多く、5mm 以下焼土やや多く含む



第 18 図　ハケ遺跡第 7 地点 H16 号住居跡（1/60）、竈（1/30）

第 13 表　ハケ遺跡第７地点出土遺物観察表　（単位 cm・g）

掲載No.	出土遺構名	種別	長さ	幅	厚さ	重量	石材 / 推定生産地	推定年代	残存 / 備考 / 注記No.
36	J31 号住居跡	石鏃	2.3	1.5	0.5	1.93	黒曜石		完形 /J31 住 A 区 1
37	J31 号住居跡	小型打製石斧	5.7	3.5	1.5	34.39	砂岩		一部欠損 /J31 住No. 200
38	J31 号住居跡	石器 / 打製石斧	10.8	5	1.5	73.03	砂岩		完形 /J31 住 H7
39	J31 号住居跡	石器 / 打製石斧	10.1	5.7	2.4	147.67	砂岩		完形 /J31 住No. 104
40	J31 号住居跡	石器 / 打製石斧	(8.8)	4.4	1.4	71.39	砂岩		上部欠損 /J31 住 H2
41	J31 号住居跡	石器 / 打製石斧	(8.6)	3.5	1.8	129.78	泥岩質ホルンフェルス		下部欠損 /J31 住 H7
42	J31 号住居跡	石器 / 打製石斧	(8.2)	5.1	2.7	137.71	砂岩		下部欠損 /J31 住No. 121
56	J32 号住居	石器 / 打製石斧	(10.7)	6	2.4	177.81	泥岩質ホルンフェルス		上部欠損 /TP1
57	J32 号住居	石器 / 打製石斧	(6.7)	5	2.2	61.69	黒色細粒砂岩		一部残存 /TP1
110	J33 号住居	石器 / 石錐	2.9	0.9	0.5	1.56	チャート		完形 /J33 住No. 349
111	J33 号住居	石器 / 尖頭器	(4.9)	1.7	0.8	6.00	黒色安山岩		下部欠損 /J33 住No. 608
112	J33 号住居	石器 / 石鏃	1.2	1.3	0.4	0.48	黒曜石		一部欠損 /J33 住No. 33
113	J33 号住居	石器 / 小型打製石斧	5.7	2.6	0.9	17.28	黒色細粒砂岩		完形 /J33 住 H1
114	J33 号住居	石器 / 磨製石斧	7.5	3.1	0.7	24.98	頁岩		完形 /J33 住No. 38
115	J33 号住居	石器 / 打製石斧	(8.5)	4.7	1.2	62.76	砂岩		上部欠損 /J33 住No. 51
116	J33 号住居	石器 / 打製石斧	9.2	3.5	1.4	57.21	泥岩質ホルンフェルス		下部欠損 /J33 住No. 445
117	J33 号住居	石器 / 打製石斧	(7.7)	5.9	1.2	150.70	黒色細粒砂岩		一部残存 /J33 住No. 427
118	J33 号住居	石器 / 打製石斧	(7)	6	1.5	97.45	砂岩		上部欠損 /J33 住No. 538
119	J33 号住居	石器 / 打製石斧	(9.1)	5.8	1.9	138.62	砂岩		上部欠損 /J33 住No. 70
120	J33 号住居	石器 / 磨製石斧	7.5	3.7	1.7	105.50	蛇紋岩？		上部欠損 /J33 住No. 426
121	J33 号住居	石器 / 敲石	12.3	4.3	2.8	195.66	砂岩		背面剥離 /J33 住No. 325
135	H14 号住居	石器 / 打製石斧	(8.2)	3.3	1.4	39.97	黒色細粒砂岩		下部欠損 /H14 住No. 17
138	H15 号住居	石製品 / 砥石	12.3	7.5	4.7	699.73	砂岩		一部欠損 /H15 住No. 6
145	H16 号住居	石器 / 石鏃	4.1	(2)	0.6	4.13	チャート		一部欠損 /H16 住No. 15
160	遺構外	石器 / 石鏃	1.5	1.1	0.4	0.58	黒曜石		完形 /H22
161	遺構外	石器 / 石鏃	2.3	1.7	0.3	1.31	チャート		完形 /5トレ 2
162	遺構外	石器 / 打製石斧	9.3	4.7	1.2	66.37	輝緑凝灰岩		完形 /H11
163	遺構外	石器 / 打製石斧	9.2	4.7	2.5	172.70	砂岩		完形 /H11
164	遺構外	石器 / 打製石斧	10.7	7.4	2	142.65	ホルンフェルス		上部欠損 /H31
165	遺構外	石器 / 磨製石斧	11.1	4.8	3.3	372.83	砂岩		上部欠損 /H20
166	遺構外	金属製品 / 銭貨	2.7	2.7	1.1	3.39	材質：銅 / 孔径 0.68/ 銭貨名：不明 / 上部欠損 /H20		



Ⅰ. 表土　暗黄灰色土　締り強、 粘性有、 所々ローム主体の覆土を伴う掘り込み有り
0. 撹乱
1. 黒色土　締り強、 粘性有、 黄灰色味が有る、 3mm 以下焼土・ローム粒少し含む
2. 黒褐色土　締り強、 粘性有、 土質は 11 層に似るが、 5mm 以下ローム粒・シミ状に黒色土をやや多く含み、 締り弱め、 3mm 以下焼土少し含む、 J31 号住居跡を切る掘り込み
3. 黒色土　締り強、 粘性有、 1mm 以下ローム粒・2mm 以下焼土少し含む
4. 暗黄灰色土　締り強、 粘性有、 3mm 以下焼土少し含む
5. 黒色土　締り強、 粘性有、 2cm 以下暗褐色土ブロック・2mm 以下ローム粒・焼土少し含む
6. 黒色土　締り強、 粘性有、 2mm 以下ローム粒やや多く、 2mm 以下焼土・5mm 以下炭化物少し含む
7. 黒色土　締り強、 粘性有、 上層より褐色味が有る、 2mm 以下ローム粒やや多く、 1cm 以下ロームブロック少し含む
8. 黒色土　締り強、 粘性有、 シミ状にローム土をやや多く含み明るめ、 5 ～ 10mm 以下ロームブロック少し含む
9. 黄灰色土　締り強、 粘性有、 黒色土主体にローム土・2mm 以下ローム粒多く含む
10. 黒褐色土　締り強、 粘性有、 2mm 以下ローム粒・5mm 以下焼土・3mm 以下炭化物やや多く含む、 焼土やや多いのが特徴
11. 黒褐色土　締り強、 粘性有、 黄灰色味が有る、 3mm 以下ローム粒少し～やや多く、 焼土・3mm 以下炭化物少し含む
12. 黒褐色土　締り強、 粘性有、 11 層より黒色味が有り、 締り強めで 3mm 以下ローム粒多め、 焼土・3mm 以下炭化物少し含む

第 19 図　ハケ遺跡第７地点 H17 号住居跡（1/60）、出土遺物（1/4）

口縁部から半截竹管で押圧した隆帯が垂下、胴部に接合する括れ部には蛇行の隆帯を廻らす。32 は大形土器で、地文は半截竹管の集合沈線を全面に施し、隆帯で捻れ蛇行懸垂文を付ける。

33 ～ 35 は底部。33 は Lr 撚糸文に半截竹管による幅 8 ㎜の 2 本組蛇行沈線を施す。34 の底部は全周し、直線の懸垂文と蛇行懸垂文が交互に 4 単位を成す。外面は研磨が著しく、内面の底部側面は黒色化してざらつき、底面は黒色から灰茶色になる。35 は浅鉢形土器の底部。内外面ともにヘラ磨き痕が著しい。外面は明茶褐色で内面は黒斑がつき黒褐色である。

② J32 号住居跡出土土器（第 23 図 43 ～ 55）

43 は、内外面貝殻条痕が施された茅山系土器。44・45 は諸磯 a 式。44 は半截竹管による平行線で縦沈線を中心にして肋骨文を施文。45 は半截竹管の連続爪形文が 5 ㎜の間隔を挟んで平行に施し、研磨され光沢を帯びる。46 は風化が著しいが、口縁部が「く」の字状に内湾。地文半截竹管の集合条線が施される。口縁部に細い粘土紐を貼り付け、頸部には等間隔に押圧したやや太い粘土紐を貼り付ける。胎土に雲母片を含む。46 は中期初頭か。47 は半截竹管による集合条線である。47 は諸磯 c 式。

48 は指頭押圧痕で、断面三角形の隆帯が横位に貼り付けた阿玉台 1b 式。49･52 は勝坂Ⅰ式（新）。49 は隆帯の脇に幅の狭い（幅 5 ㎜）「D」字形連続爪形文、50 ～ 52 は、「D」字形の幅広三角（幅 8 ㎜）の連続爪形文が施文。隆帯の断面はやや丸い三角形。53 ～ 55 は勝坂Ⅱ式。53･54 は「D」字形の幅広（1.2 ㎜位）連続爪形文が 1 ㎜間隔に密に施文。53 の図示下端にいわゆる抽象文で、胴部地文は LR の単節を横位に回転施文。54 も抽象文である。55 は、隆帯の上に密な「C」字形の連続爪形文を施文。胎土に雲母が混入する。

③ J33 号住居跡出土土器（第 24・25 図 58 ～ 109）

64 ～ 88 は、混入した土器で細片が多く、住居跡と所属時期が異なる。他は住居に関係する。58 は、6 単位の突出渦巻文を「U」字状で連結させ口縁部文様帯を構成。地文条線で明茶褐色。胴部には竹管で 2 本の平行懸垂文と 1 本の緩い蛇行懸垂文を付ける。59 は加熱を受けているらしく非常に脆い。口径 42 ㎝（接合しないが 1/3 現存）で白黄色。地文 Lr 撚糸文を施し、粘土紐を貼付け渦巻文と楕円枠文を構成。胴部には 2 本の隆帯で平行懸垂文と 1 本の蛇行懸垂文を貼り付ける。60 は地文 Rl 撚糸文、灰黄色で内面黒褐色。加熱を受け器面は風化し脆い。3 本の沈線で 2 本単位の「擬隆帯」による平行懸垂文、蛇行懸垂文が付く。61 は、波状口縁で口径約 30 ㎝（現存 1/10）。加熱を受けたようで風化が激しい。暗褐色。図示した口縁部と胴部は接合しないが同一個体。口縁部は無文で、胴部上半まで 6 ～ 8 本単位の条線。胎土には 8 ㎜大の小砂利が多量に混じる。

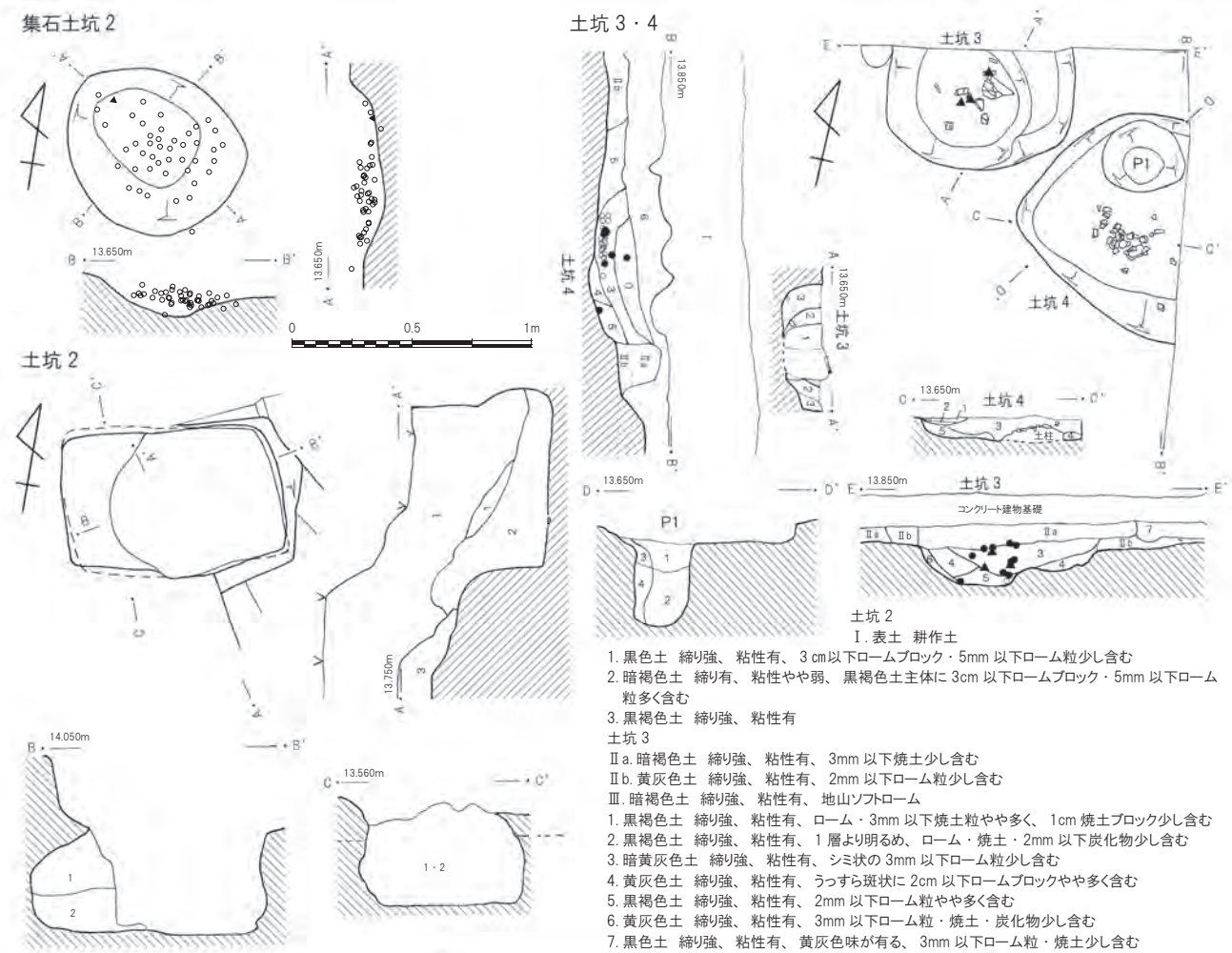
62 は口径 44.5 ㎝（現存 6/8）、同一個体の破片は多いが接合しない。色調は茶褐色。加熱を受けたようで非常に脆い。口縁部は無文で口唇部は内側に湾曲した曽利系。頸部に太い半截竹管による平行線を蒲鉾状に 5 段ほど施し、上を斜め右側から左上、左下方向へ交互刺突文を 2 段に施す。胴部には RL 単節を縦回転。隆帯の懸垂文を貼り付ける。63 は胴下半部で地文条線。黄褐色で胎土は非常に脆い。隆帯の直線懸垂文、蛇行懸垂文を雑に付ける。

64 ～ 66 は諸磯 a 式。64 は口縁部直下に半截竹管による押し引き、縦に円形刺突から半截竹管による肋骨文を施文。65 は半截竹管で平行線を引いた後、間に鋸歯文を施文。66 は半截竹管の集合条線を横直線に引き、間に波状集合条線を加え、さらに口縁部から刺突文を加える。67・68 は縄文のみの胴部片、RL 単節を横回転施文。端末を S 字状の結節文。

69 ～ 71 は諸磯 b 式。69 は連続 C 字形の大形の半截竹管文。70 は 2 単位の大形波状口縁の土器と推察。右側へ引いた半截竹管と器面に直角に押した円形刺突文がある。71 は口縁部で、細い粘土紐で斜位に刻みを加えた浮線文で文様を付ける。

72 ～ 74 は集合条線の諸磯 c 式。72 は重渦巻き文の口縁部片。73 は波状口縁部で、内外面に集合条線を施す。74 は上半が横位、下半は縦に集合条線を施文し、円形の貼付がある。75、76 も同類である。75 は胎土に雲母片が混入、口縁部は横位に胴部は縦に半截竹管の集合条線を施文、直径 5 ㎜の小さい円形の貼付文が付ける。76 は口縁部で半截竹管を束にした条線を斜めに施し円形の貼付文がある。77 は胎土に雲母片が混入。貝殻復縁を横位に結節して引く。78 は口径 20 ㎝程、外面は雑な擦痕調整で凹凸が激しく、内面はよく磨く。口唇部が大きく外湾し 7 ㎜間隔で刻みが付く。外面に 2 ～ 3 ㎜の半截竹管で左上から右下に 1 ～ 1.4 ㎝間隔で施文。77 ～ 78 は興津式土器か。

79 は波状口縁で胎土に雲母を多量に含み黒褐色。断



土坑２
Ⅰ.表土　耕作土
1. 黒色土　締り強、 粘性有、 3㎝以下ロームブロック・5mm 以下ローム粒少し含む
2. 暗褐色土　締り有、 粘性やや弱、 黒褐色土主体に 3cm 以下ロームブロック・5mm 以下ローム粒多く含む
3. 黒褐色土　締り強、 粘性有

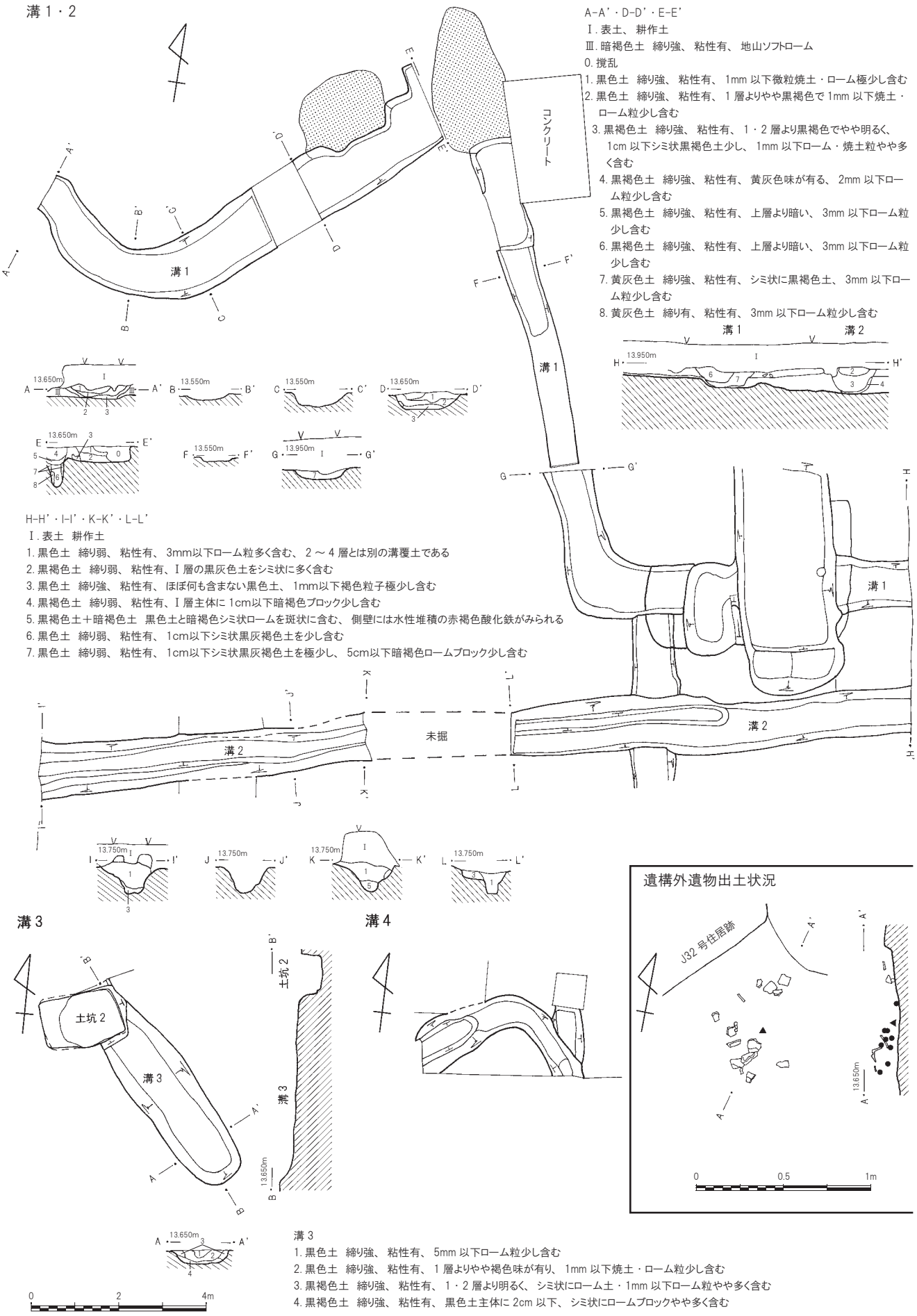
土坑３
Ⅱa. 暗褐色土　締り強、 粘性有、 3mm 以下焼土少し含む
Ⅱb. 黄灰色土　締り強、 粘性有、 2mm 以下ローム粒少し含む
Ⅲ. 暗褐色土　締り強、 粘性有、 地山ソフトローム
1. 黒褐色土　締り強、 粘性有、 ローム・3mm 以下焼土粒やや多く、 1cm 焼土ブロック少し含む
2. 黒褐色土　締り強、 粘性有、 1 層より明るめ、 ローム・焼土・2mm 以下炭化物少し含む
3. 暗黄灰色土　締り強、 粘性有、 シミ状の 3mm 以下ローム粒少し含む
4. 黄灰色土　締り強、 粘性有、 うっすら斑状に 2cm 以下ロームブロックやや多く含む
5. 黒褐色土　締り強、 粘性有、 2mm 以下ローム粒やや多く含む
6. 黄灰色土　締り強、 粘性有、 3mm 以下ローム粒・焼土・炭化物少し含む
7. 黒色土　締り強、 粘性有、 黄灰色味が有る、 3mm 以下ローム粒・焼土少し含む

土坑４
0. 黒色土　締り強、 粘性有、 5mm 以下焼土少し含む
1. 黄灰色土　締り強、 粘性有、 2mm 以下ローム粒少し含む
2. 灰黒色土　締り強、 粘性有、 5mm 焼土少し含む
3. 黒褐色土　締り強、 粘性有、 黄灰色味が有る、 3mm 以下焼土少し含む
4. 黒褐色土　締り強、 粘性有、 シミ状にローム土多く含む、 2mm 以下焼土少し含む
5. 黄灰色土　締り強、 粘性有、 3mm 以下ローム粒少し含む
6. 黒色土　締り強、 粘性有、 黄灰色味が有る、 3mm 以下ローム粒・焼土少し含む

ピット１
1. 暗黄灰色土　締り強、 粘性有、 色調は土坑４の４層に近い、 2mm 以下ローム粒やや多く、 3mm 大焼土・炭化物少し含む
2. 暗黄灰色土　締り強、 粘性有、 締りは１層より弱め、 3mm 以下ローム粒多く含む
3. 黄灰色土　締り強、 粘性有、 シミ状に 3mm 以下ローム粒少し、 焼土僅かに含む
4. 黄灰色土　締り強、 粘性有、 締り３層より弱め、 シミ状に 3mm 以下ローム粒少し含む

井戸１
0. 撹乱
1. 黒褐色土　締り強、 粘性有、 2mm 以下ローム粒やや多く含む
2. 黒褐色土＋黒色土　締りやや強、 粘性有、 黒褐色土とこくしょくどの混合で 1mm 以下ローム粒極少し含む
3. 黒褐色土　締りやや強、 粘性有、 2 層に見られた黒色土を含まない以外は、 ほぼ 2 層に同じ
4. 黒褐色土　締りやや強、 粘性有、 ロームブロック多く含む
5. 黒褐色土　締り有、 粘性有、 5mm 以下ローム粒少し含む、 黄灰色味が有る
6. 黄褐色土＋黒褐色土　締りやや強、 粘性有、 黒褐色土とローム土が混ざる、 西半は約 5cm 厚の黒褐色土とローム土が斜位に互層を成す
7. 黒褐色土　締り有、 粘性有、 2cm 以下ロームブロック・ローム粒部分的に少し含む
8. 黒褐色土　締りやや弱、 粘性有、 1cm 以下ロームブロック・ローム粒やや多く含む
9. 黄褐色土　締りやや弱、 粘性有、 黄灰色味有る黒褐色土ベースに、 5cm 以下ロームブロック・ローム粒主体
10. 黒褐色土　締り有、 粘性有、 2cm 以下シミ状のロームブロック・5mm 以下ローム粒やや多く含む、 黒褐色土と黒色土の混合土
11. 断移層～ソフトロームのブロック崩落土か

第 20 図　ハケ遺跡第７地点集石土坑２（1/30）、土坑・井戸（1/60）



第 21 図　ハケ遺跡第 7 地点溝（1/120）、遺構外遺物出土状況（1/30）

面三角系の隆帯脇に結節沈線文を加え、胴部に指頭による押圧痕が付く。阿玉台 1b 式。

80 ～ 86 は勝坂Ⅰ式。幅３㎜程の半截竹管による結節沈線を多用。80 は粘土紐で長方形の枠状文を付け、口縁部に鋸歯文、胴部に平行文を多用。81 も口縁部に鋸歯文、胴部に爪形文が斜め縦位に８㎜間隔で付く。82 は口唇部に２条、直下に蛇行の連続爪形文を施す。83 は蛇行の抽象文で、蛇行起点に三叉文を配置する。84 は口唇部に横一状の幅７㎜で間隔３㎜のキャタピラ文が付く。直下に 82 と同じ幅４㎜の蛇行爪形文を施文、さらに隆帯脇に幅７㎜のキャタピラ文が付く。85 は先端が尖る幅８㎜の三角状の連続爪形文を間隔３㎜で隆帯脇に二重に密に施文。内面はよく研磨する。86 は粘土紐の隆帯で区分を構成し、地文単節 RL を横位に施文、隆帯脇を半截竹管で３㎜間隔のキャタピラ文を施す。空白部には幅３㎜の爪形文を充填。87・88 は同一個体で勝坂Ⅱ式（古）。隆帯で大きな三角形を構成し隆帯の脇を幅１㎝で約５㎜間隔のキャタピラ文を施文。空白部に三叉文を加える。

89 は加曽利ＥⅠ式。S 字状文様の橋状突手。地文単節 RL を横位に施文。90 ～ 92 は加曽利ＥⅡ式(古)。90 は「く」の字状に外湾した浅鉢形土器で単独の渦巻文を連結する。内外面ともによく研磨する。91 は隆帯で多重渦巻文を施文。92 は粘土紐を貼り付け突出渦巻文を付ける。

93 ～ 96 は曽利系土器。93 は口唇部内面に「フ」状に突出させ、口唇部上面に５㎜間隔で斜め沈線を付ける。外面は地文条線で二条の沈線を描く。94 は推定口径 45 ㎝、「フ」状の口唇部と口縁部外面に半截竹管で平行線の連続した重弧線文を付けた典型的な曽利Ⅱ式。黒褐色で外面は脆く風化が激しい。95 は半截竹管で平行沈線の重弧文を施文。口縁部から垂下する蛇行隆帯と頸部に横位蛇行隆帯を付ける。96 は地文単節 RL を施文、頸部と胴部に粘土紐で蛇行隆帯を貼付する。

97・98 は連弧文。97 は地文条線に、竹管状工具で沈線を３本引く。98 は地文 Lr 撚糸文に連弧文を施す。口唇部に半截竹管で斜め左下から列点を付ける。99・100 は胴部片で地文単節 RL を縦回転し、沈線で連結 S 字状渦巻き文を付ける。外面黒褐色で内面黄褐色。100 は地文単節 RL に、幅１㎝の半截竹管による平行線で蛇行懸垂文を施す。101 は有孔鍔付土器。鍔の断面は方形状に突出する。102 ～ 105 は加曽利ＥⅡ式（新）～ＥⅢ式。102 は地文単節 RL に大きな楕円渦巻文。103 は胴部下半で地文は無節 Rl に２本対の幅広沈線で懸垂文施文。104 は地文単節 RL を雑に施文、口唇部直下に二本の沈線。105 は底部で地文単節 RL に浅い沈線による平行懸垂文で研磨が著しい。

106 ～ 107 は浅鉢形土器で、内外面良好に磨きを施し、胎土の砂粒も非常に細かい。106 は口径 40 ㎝(現存 1/10)。外面は赤彩がみられ、赤茶色を基調に黒斑が大きい。107 は口径約 40 ㎝（現存 1/8)、外面に赤彩がみられ、内面黒褐色、外面茶褐色を基調に黒斑あり。108 は底部で底径 7.5 ㎝。109 は浅鉢形土器で 107 に類似、同一個体の可能性有り。

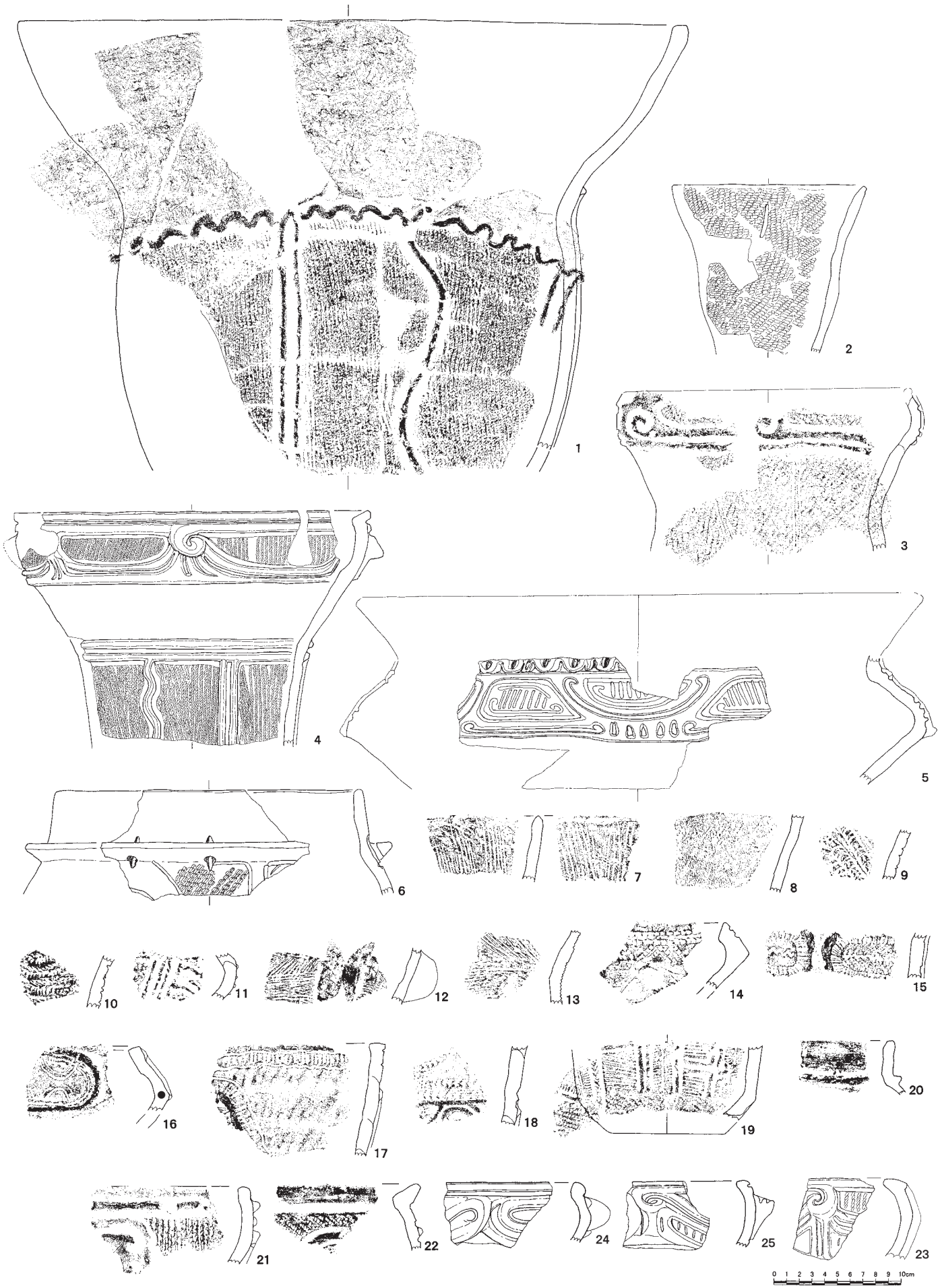
④ H14 号住居跡出土土器（第 26 図 122 ～ 134）

122 ～ 125 は須恵器坏。122 は大略完形。口径 13 ㎝、器高 4.3 ㎝、底径 7.3 ㎝。底部回転糸切り後、周辺部回転ヘラ削り調整。灰褐色で胎土に白色針状物質を含む。内外面ともに滑らか。123 は現存口縁部 1/2、底部 1/3、口径 13.6 ㎝、器高 4.0 ㎝、底径 7.4 ㎝。底部側面に回転ヘラ削り調整が残る。外面下半にロクロ痕があり、口縁部先端は外湾する。胎土に白色針状物質含む。124 は現存口縁部 1/2。口径 12.5 ㎝、器高 3.1 ～ 3.5 ㎝、底径 6.4 ㎝で暗褐色。口縁部は緩やかに外湾。底部には回転糸切り離し後、周辺部手持ちヘラ削り調整。125 は現存口縁部 3/5。口径 12.3 ㎝、器高 3.3 ㎝、底径 6.7 ㎝で灰褐色。底部は全面回転糸切り切り離し後、周辺部に一部手持ちにより若干のヘラ削り調整を施す。底部に「×」の窯印がある。126 は底部破片。底径４㎝で現存 1/2、明茶褐色。回転糸切り後、周辺部回転ヘラ削り調整。内面に爪立てによる凹みがある。内面の調整は滑らかである。

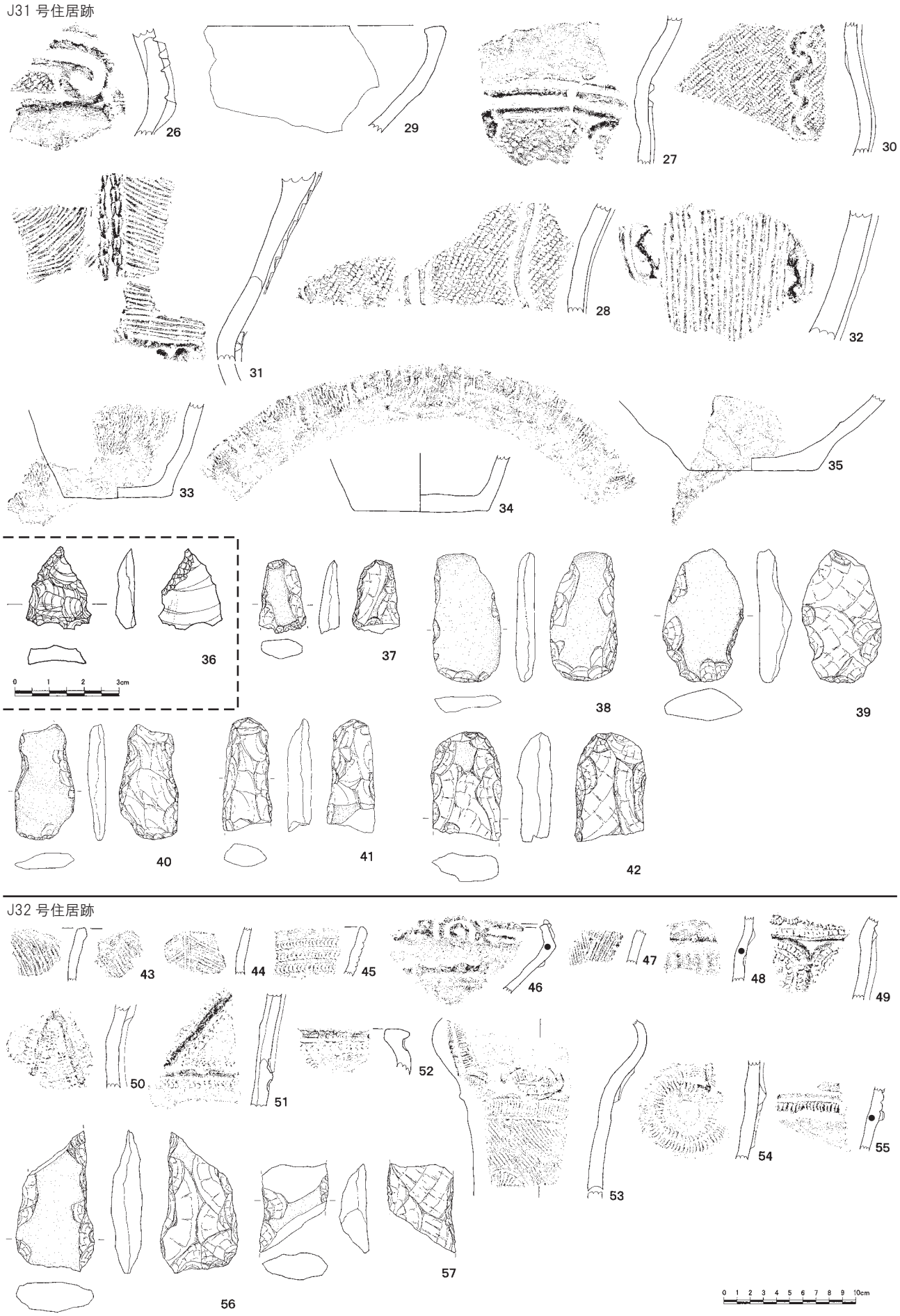
127 は、長頸瓶の高台付底部。高台径は 8.5 ㎝。器面は滑らかで硯に転用か、図示した範囲に煤状の付着物がある。胎土に白色針状物質含む。

128 は、須恵器椀形土器。現存 1/8、口径 16.6 ㎝。色調灰褐色でロクロ痕の凸部が青色を帯び、非常に丁寧な作りである。底部下端周辺に手持ちによる調整痕あり。129 は須恵器壺形土器の肩部片である。破片の為、図示による器形の傾き等は確かではない。頸部の接合部に、櫛状工具による調整痕有り。胴部下半には平行叩き痕が密に施され、胎土には白色針状物質を含む。

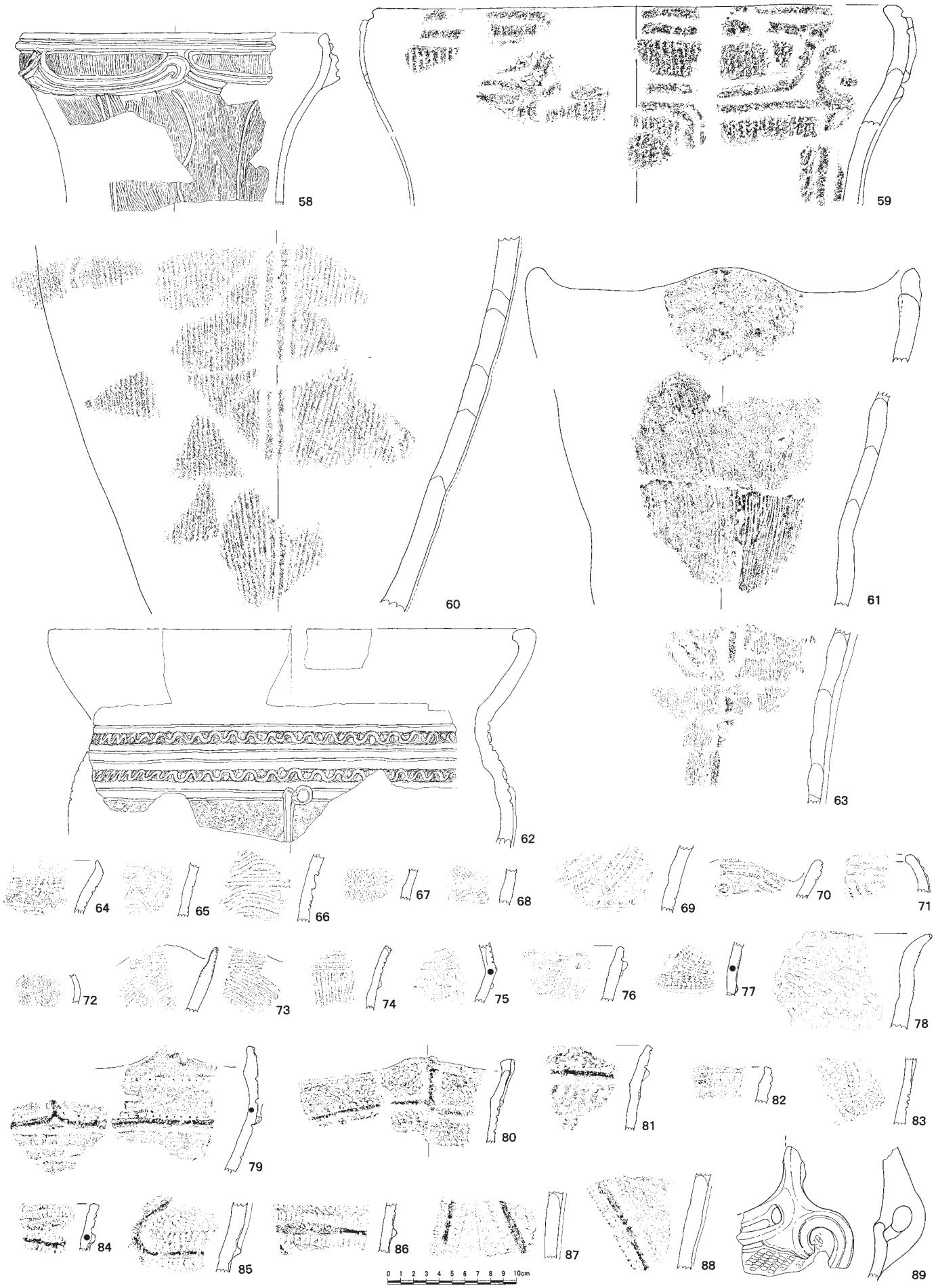
130 ～ 132 は土師器小形台付甕の口縁部。130 は



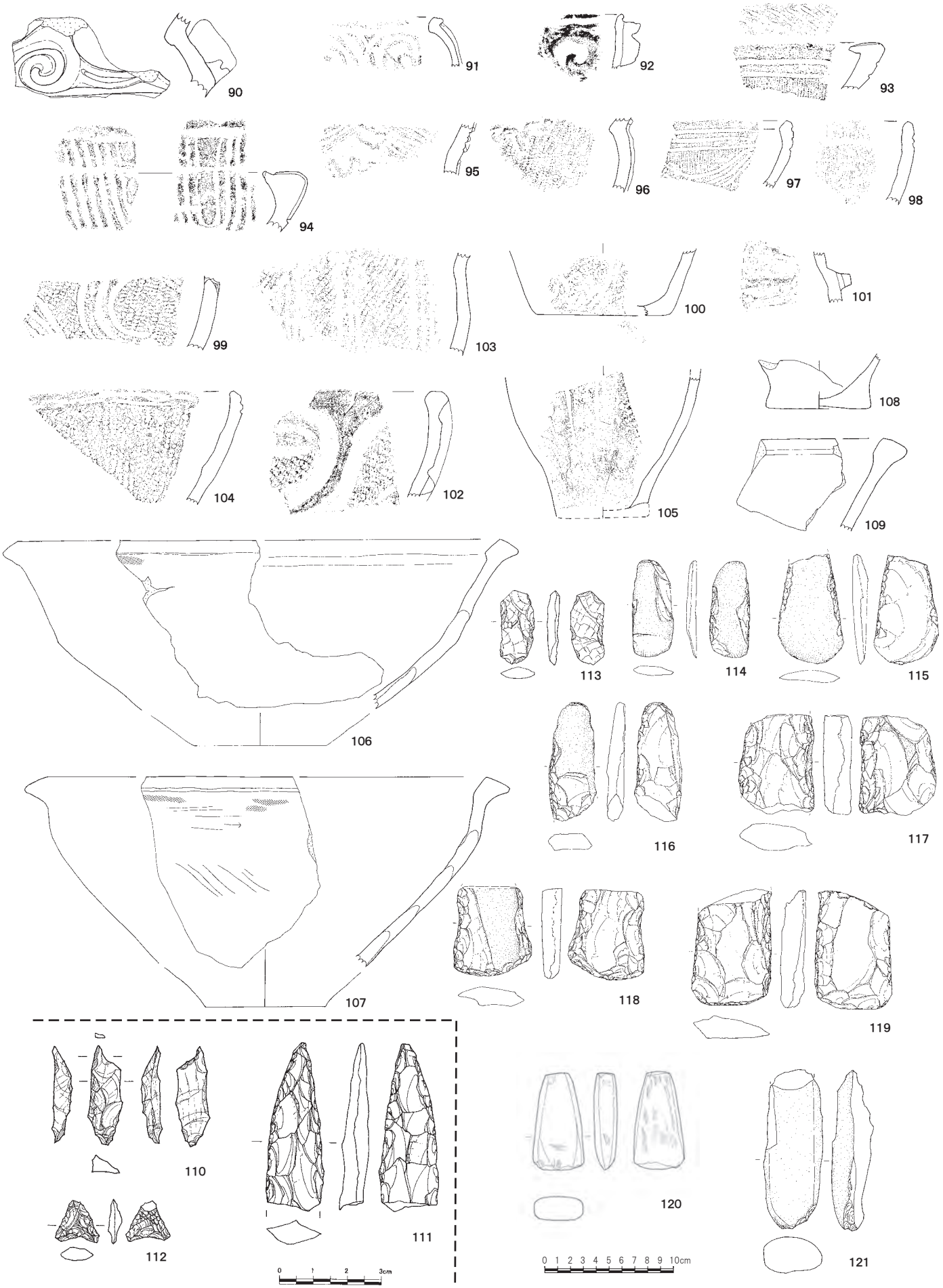
第 22 図　ハケ遺跡第 7 地点 J31 号住居跡出土遺物①（1/4）



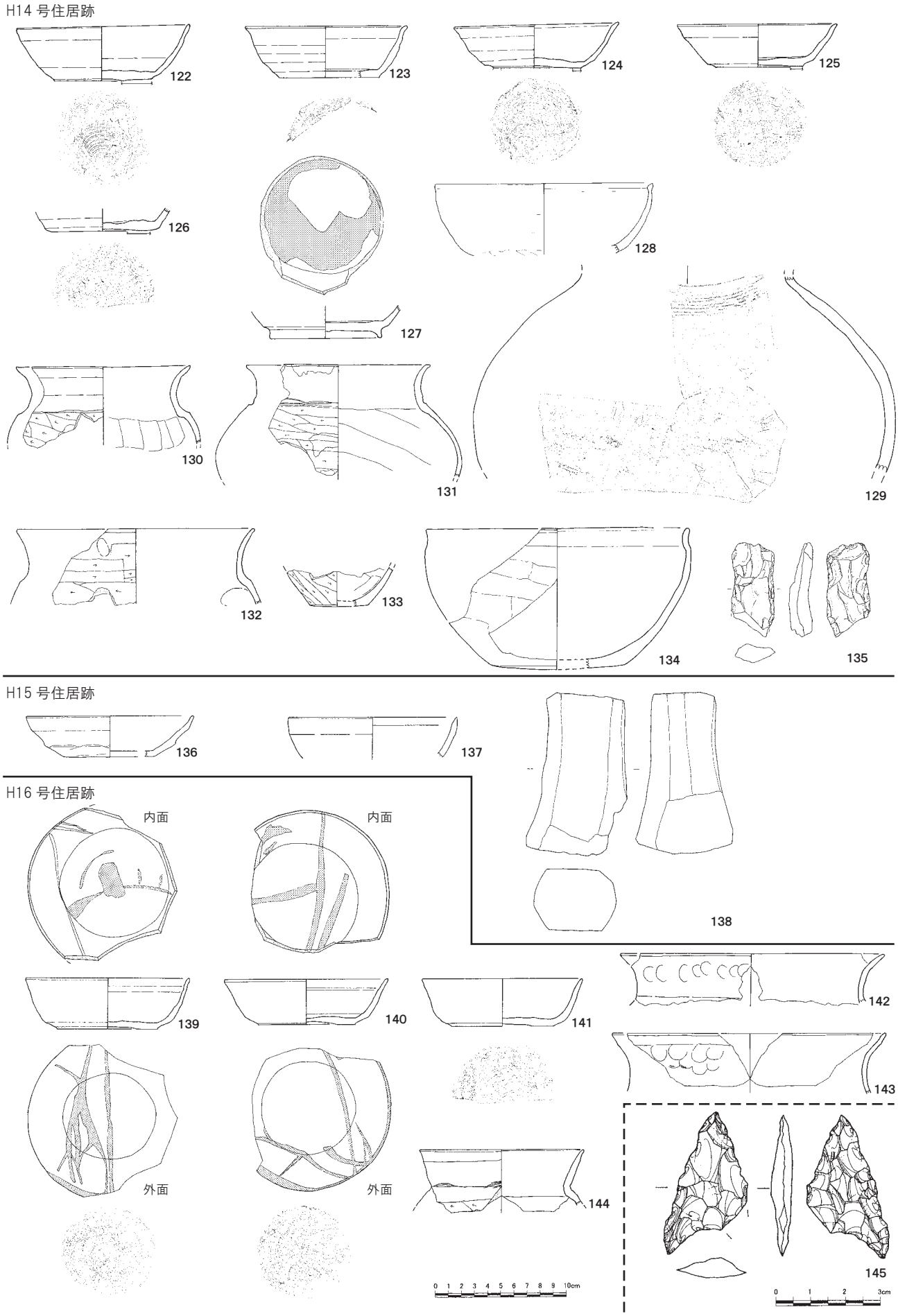
第 23 図　ハケ遺跡第 7 地点 J31 号住居跡出土遺物②・J32 号住居跡出土遺物（1/4）



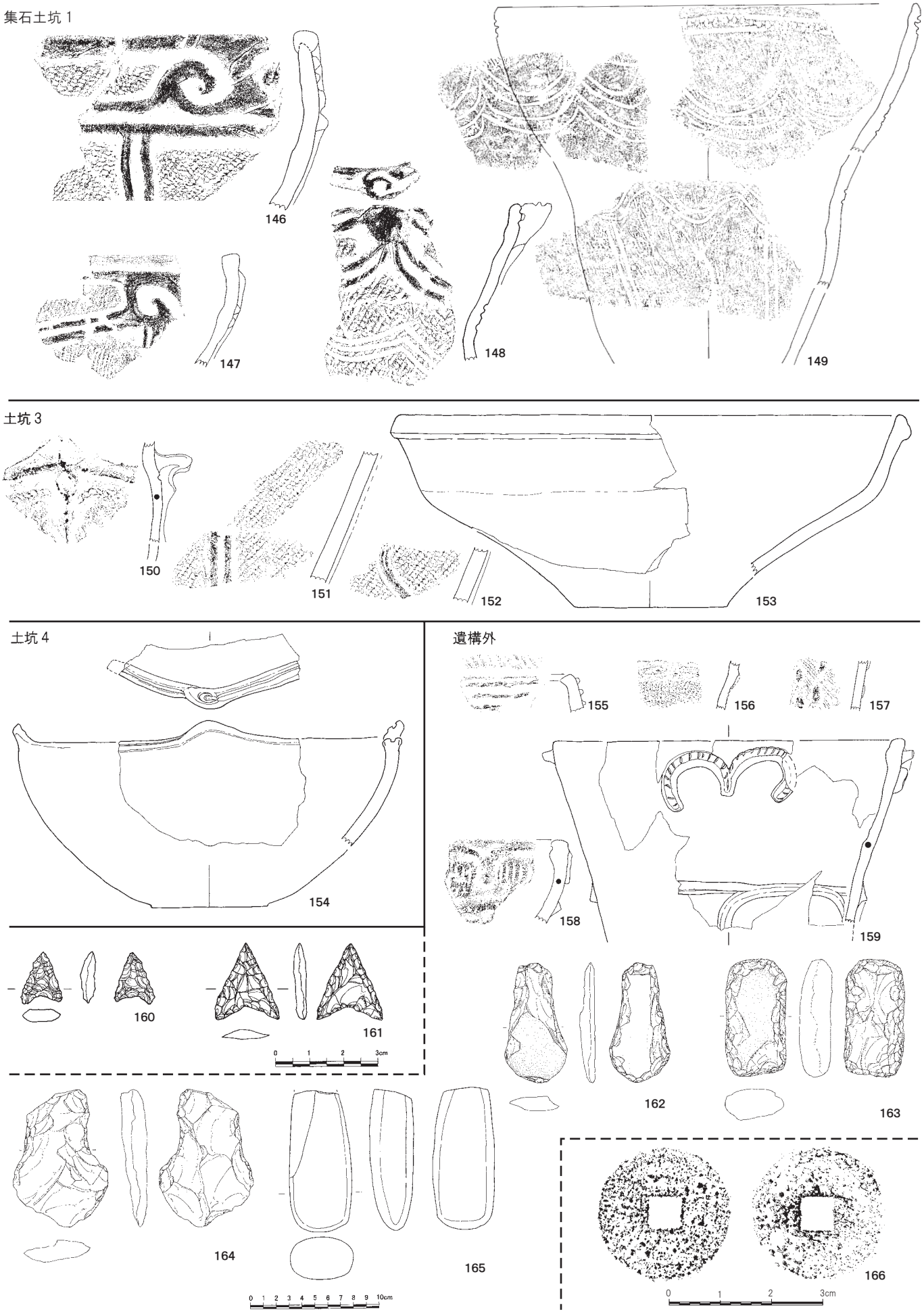
第 24 図　ハケ遺跡第 7 地点 J33 号住居跡出土遺物①（1/4）



第 25 図　ハケ遺跡第 7 地点 J33 号住居跡出土遺物②（1/4・2/3）



第 26 図　ハケ遺跡第 7 地点 H14 ～ 16 号住居跡出土遺物（1/4・2/3）



第 27 図　ハケ遺跡第７地点集石土坑・土坑・遺構外出土遺物（1/4・2/3・1/1）

口径 13.5 ㎝（現存 1/4）。黄褐色で胎土に白色針状物質を含む。131 は口径 14 ㎝（現存 1/7）、130 に較べ胴部が大きく張り出す。132 は土師器甕形土器。口径 18 ㎝（現存 1/8）、カマド内から出土する。133 は土師器甕形土器の底部で、底径 4.8 ㎝である。

134 は土師器椀形土器。口径 20 ㎝（現存 1/5）、体部は内湾して立ちあがる、口縁部は横ナデで外湾する。胎土は強い焼成により非常に脆い。外面調整の削り痕の凹凸がみられるが方向ははっきりしない。

⑤ H15 号住居跡出土土器（第 26 図 136 ～ 137）

136 は土師器坏、口径 12.8 ㎝（現存 1/10）、黄肌色。体部下半はヘラ削りの凹凸が激しく、器面は強い焼成で胎土の粉末が付着する。137 は須恵器坏で焼成不良、灰褐色。口径 13.0 ㎝（現存 1/10）。

⑥ H16 号住居跡出土土器（第 26 図 139 ～ 144）

139 ～ 141 は須恵器坏。139 は口径 12.5 ㎝（現存 1/3）、器高 3.9 ㎝、底径 7.3 ㎝。底部は回転糸切り後、周辺部回転ヘラ削り。灰褐色で白色針状物質を含む。火襷痕が内外面に線状に付着。140 は口径 12.6 ㎝（現存 1/2）、器高 3.4 ㎝、底径 7.3 ㎝。底部は回転糸切り後、周辺部回転ヘラ削り。灰褐色で白色針状物質を含む。色調と火襷痕は 139 に同じ。141 は口径 12.3 ㎝（現存 1/2）、器高 3.7 ㎝、底径 7.7 ㎝。底部は回転糸切り後、周辺部回転ヘラ削り。灰白色で器表面は内外とも滑らか。胎土に白色針状物質を含む。

142・143 は土師器甕形土器。142 は口径 20 ㎝。口縁部直下外面に指頭による押さえにより口縁部外湾。内面は横ナデ。143 は口径 20.8 ㎝（現存 1/8）。142 と同じく口縁部直下外面に指頭による押さえにより口縁部外湾させ口縁部先端は内湾気味に作出。内面は横ナデ。144 は土師器小形台付き甕。口径 12.5 ㎝（現存 1/2）。口縁部は「く」の字状に直線的に外湾。先端は指頭による横ナデの凹みがつく。

⑦ H17 号住居跡出土土器（第 19 図 1）

覆土層から出土した土師器坏の口縁部で、体部はヘラ削りで口縁部は横撫でを施す。

⑧集石土坑出土土器（第 27 図 146 ～ 149）

大形の破片が多く出土する。146 ～ 148 は隆帯により渦巻文と楕円区画文の組み合わせで文様帯を構成。いずれも隆帯の脇のナゾリは浅く弱い。146・147 は 2 本対の平行懸垂文が付く。文様は渦巻が独立し新しい、加曽利 E Ⅱの古段階。148 は突出渦巻きを起点に楕円形区画を配する。頸部に 3 単位の沈線で連弧文を施文。149 は口径 33 ㎝（現存 1/10）。口縁部に 2 本の沈線の間に刺突の列点文を施文。口縁部上段に 4 本単位、下段に 2 本単位の連弧文を、胴部下半に 2 本単位の懸垂文を施文。146・148 が地文単節 RL、147・149 は Lr 撚糸文。148・149 の連弧文土器が伴う。

⑨土坑出土土器（第 27 図 150 ～ 154）

150 ～ 153 は土坑 3 出土、154 は土坑 4 出土である。150 は雲母を多量に含み、断面三角形の隆帯の脇に結節沈線を施した阿玉台 1b 式土器。151・152 は同一個体。地文に単節 RL を縦回転した後、2 本対の隆帯で懸垂文、1 本の隆帯で蛇行懸垂文を付ける。153 は口径 40 ㎝（現存 1/4）。5 ㎜大の石英や非常に細かい黄色砂粒を多量に含む。茶褐色で、内外面をよく研磨する。

154 は口径 30 ㎝（現存 1/4）、おそらく 4 単位波状口縁の浅鉢形土器。波頂部の口唇部内面には渦巻き文が付く。内面黄褐色、外面暗褐色、胎土に黄色や白色の細かい砂粒を多量に含む。

⑩遺構外出土土器（第 27 図 155 ～ 159）

155 は極細い竹管状工具の押し引きを 3 列単位に横方向に施文する。155 の口縁部は内傾し、口唇部に斜位の刻みを施す。口唇部に沿って 3 本の幅 5 ㎜の粘土紐を貼り付ける。諸磯 b 式。156 は貝殻腹縁文を 3 段ほど密に横方向へ施文する。器厚は 6 ㎜程度。157 の地文は、半截竹管で条線を斜位に施し、浮線文を貼り付ける、諸磯 c 式。158 は明茶褐色で、断面三角形の隆帯で枠状文を構成し、内部に幅 15 ㎜の半截竹管で連続爪形文を施文、阿玉台Ⅱ式。159 は口径 25 ㎝（現存 1/4）、胎土に多量の雲母を含む。口縁部に、断面が方形で刻みを持つ隆帯を、横「3」字状に貼り付ける。胴下部の楕円形文の隆帯は、断面三角形である。外面は凹凸があるが内面は平滑に磨かれる。胴下部と胴上部の隆帯の断面形が、全く異なる形状など興味深いが、阿玉台Ⅲ式に勝坂Ⅲ式の様相が加わったものであろう。

（笹森健一）

ま と め

2013（平成 25）年度の埋蔵文化財発掘調査は 51 件の試掘調査のうち、11 件の本発掘調査を実施した。内訳は個人住宅 3 件、公共事業 2 件、民間開発 6 件である。民間開発に伴う本発掘調査のうち、3 件を本書に掲載した。開発種別の内訳は老人介護福祉施設建設、宅地造成、分譲住宅建設に伴うものである。本書に掲載した報告のうち、遺跡別に主な遺構と遺物について、問題点や今後の課題についてみてみたい。

（1）鶴ヶ岡外第 6 地点

本遺跡では、試掘・本調査合わせて 6 地点の調査を実施している。これまでの調査で、旧石器時代～縄文時代早期が主体の遺跡と考えられていた。

しかし、今回の調査で 11 世紀前半～ 12 世紀後半の木炭窯 1 基を検出し、ふじみ野市内で確認された木炭窯は 18 基となった。東台遺跡第 15 地点 1 基（9 世紀前半）、東台遺跡第 18 地点 9 基（8 世紀～ 9 世紀）、西台遺跡第 3 地点 1 基（古代か？）、神明後遺跡第 41 地点 2 基（14 世紀前半～ 15 世紀前半）、浄禅寺跡遺跡第 30 地点 1 基（15 世紀前半）、本村遺跡第 86 地点 1 基（10 世紀）、本村遺跡第 111 地点 1 基（15 世紀前半）、大井氏館跡遺跡第 9 地点 1 基（近代以降）、鶴ヶ岡外遺跡第 6 地点 1 基である。

これまでは市域の南部にある砂川、浄禅寺川、富士見さかい川沿いの遺跡で主に検出されていた。これは、東台遺跡第 18 地点の製鉄遺跡（8 世紀～ 9 世紀）、本村遺跡や神明後遺跡の古代～中世の集落跡、浄禅寺跡遺跡の旧寺院跡との関連が深いためと考えられる。

市内の他の河川周辺でも、木炭窯の存在が指摘されていたが、北部の鶴ヶ岡外遺跡で発見されたことにより、市内全域にこうした木炭窯が存在する可能性が高くなった。鶴ヶ岡外遺跡の木炭窯は、古代から近世まで、周辺地域の生業や地域史を研究する上で、貴重な資料である。

（2）ハケ遺跡第 7 地点

今回の調査で、縄文時代中期 3 軒と、8 ～ 9 世紀住居跡 4 軒の他、縄文時代や古代～近世にかけての遺構や遺物が多数確認された。しかし、依然として縄文時代～古代の集落跡についての全容を知るには、新河岸川の崖線付近の調査が不足している。

縄文時代中期の集落跡は、埼玉県道 56 号線さいたまふじみ野所沢線の、東側に平行するように位置し、北側では台地の等高線に沿うように東側に広がる。中期末～後期の加曽利 B 式や堀ノ内式期では、舌状に張り出す中央部から東側、標高 14 ～ 15 m付近に集中する。縄文時代の集落については、市内の中～大規模集落よりも、苗間東久保遺跡や神明後遺跡などの小～中規模な遺跡との比較研究も必要であろう。また、現在の調査状況では、8 ～ 10 世紀の住居跡も、縄文時代の集落と重なる点は興味深い。

さらに、本地点整理作業中の 2014 年 7 ～ 8 月、第 16 地点の試掘及び本調査で、6 世紀中～後半の古墳 1 基 (周溝) から、多数の人物埴輪と円筒埴輪が出土した。詳細は本報告を待たねばならないが、周辺部では 6 世紀代の住居跡 1 軒を検出しており、今後の検討課題であるとともに、周辺部の調査にも期待したい。

（3）長宮遺跡第 44 地点

長宮遺跡では近年、縄文時代前期関山期の住居跡の検出が相次いでいる。2011 年以降は 7 軒を確認し、うち 6 軒を検出した。住居跡の時期は関山Ⅱ式期が多く、J16 号住居跡も当該期に属する。J16 号住居跡の炉について、若干の補足をしてまとめに代えたい。

関山期の住居内の炉には、礫や石器、土器等を再利用して埋設、又は配置する例が多くみられる。隣市の富士見市打越遺跡は関山期の住居跡 56 軒が確認され、武蔵野台地北部の拠点的集落である。打越遺跡 14 号住居址と 224 号住居址でも、炉内に礫と土器片を埋設しており、J16 号住居跡も同類と言える。

J16 号住居跡炉内埋設土器は第 39 図 4・6・8 と第 41 図 44 で、大型土器片を横位に 6 重に埋設する。埋設土器は、関山式の古相のものと新相のものがみられる。第 39 図 4 は関山式Ⅰ式、同図 6・8 と第 41 図 44 は関山式Ⅱ式とみられ、時間差が生じる。本住居跡の時期は、柱穴の配置から住居拡張の可能性があり、炉内埋設土器の時期と考え併せ、関山式Ⅱ式の古相段階としたい。

最後に、各地権者・開発関係者の皆様には発掘調査から報告書刊行まで、埋蔵文化財に対するご理解と費用負担にご協力いただきました。深く感謝申し上げます。

ハケ遺跡第 7 地点 J31 号住居跡遺物出土状況

ハケ遺跡第 7 地点 J31 号住居跡遺物出土状況

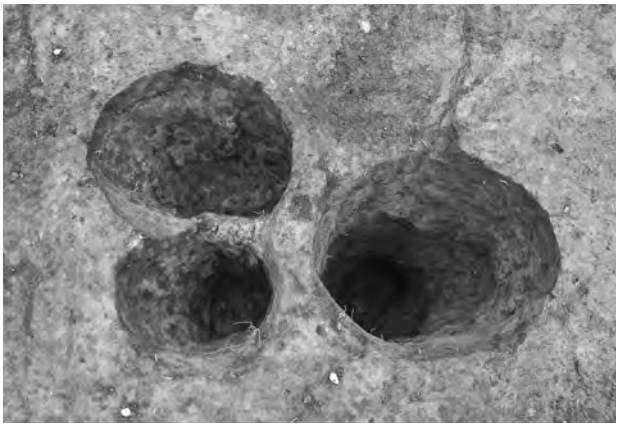
ハケ遺跡第 7 地点 J31 号住居跡遺物出土状況

ハケ遺跡第 7 地点 J31 号住居跡遺物出土状況

ハケ遺跡第 7 地点 J31 号住居跡

ハケ遺跡第 7 地点 J31 号住居跡

ハケ遺跡第 7 地点 J32 号住居跡炉



ハケ遺跡第 7 地点 J32 号住居跡 P3・4・10 ～ 12

ハケ遺跡第 7 地点 J32 号住居跡遺物出土状況

ハケ遺跡第 7 地点 J32 号住居跡

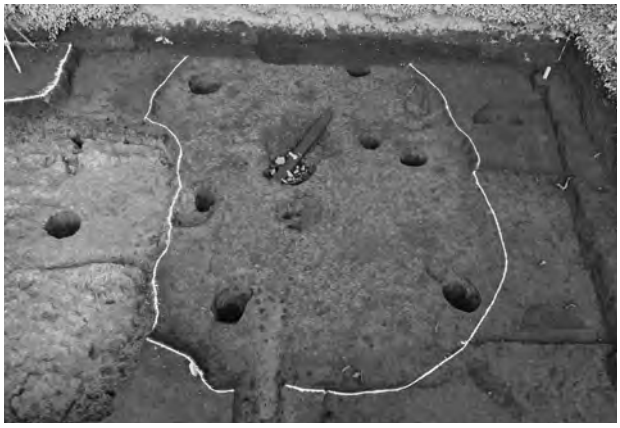
ハケ遺跡第 7 地点 J33 号住居跡遺物出土状況

ハケ遺跡第 7 地点 J33 号住居跡遺物出土状況

ハケ遺跡第 7 地点 J33 号住居跡炉 2・集石土坑 1

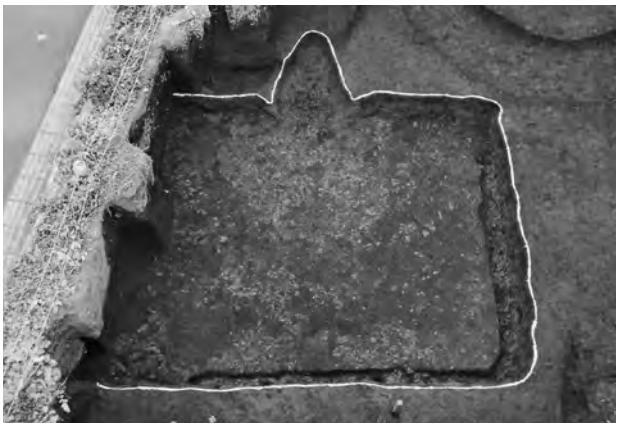
ハケ遺跡第 7 地点 J33 号住居跡炉 2・集石土坑 1

ハケ遺跡第 7 地点 J33 号住居跡



ハケ遺跡第 7 地点 J33 号住居跡

ハケ遺跡第 7 地点 H14 号住居跡遺物出土状況



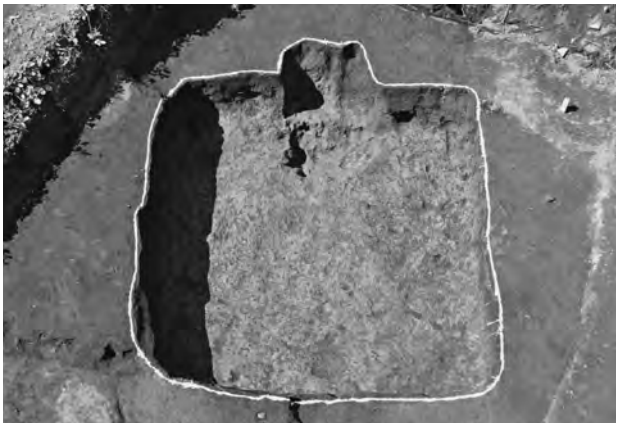
ハケ遺跡第 7 地点 H14 号住居跡

ハケ遺跡第 7 地点 H14 号住居跡竈内遺物出土状況

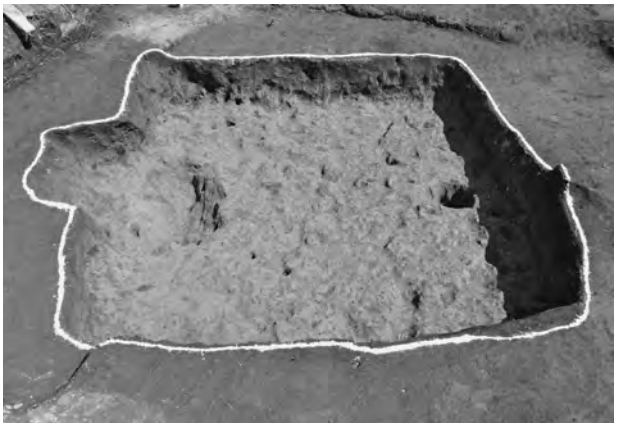
ハケ遺跡第 7 地点 H14 号住居跡竈

ハケ遺跡第 7 地点 H14 号住居跡掘方

ハケ遺跡第 7 地点 H15 号住居跡竈

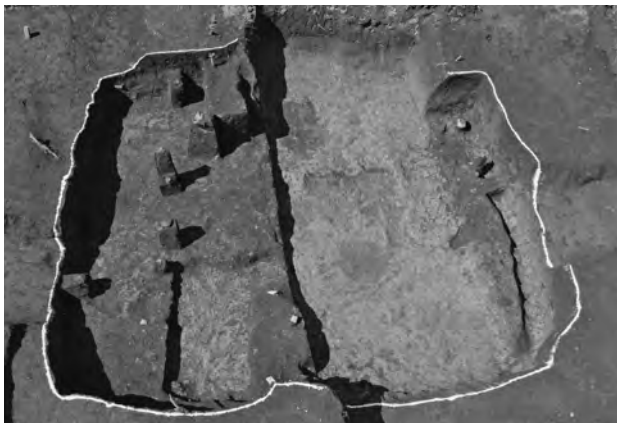


ハケ遺跡第 7 地点 H15 号住居跡



ハケ遺跡第 7 地点 H15 号住居跡掘方

ハケ遺跡第 7 地点 H16 号住居跡竈



ハケ遺跡第 7 地点 H16 号住居跡遺物出土状況

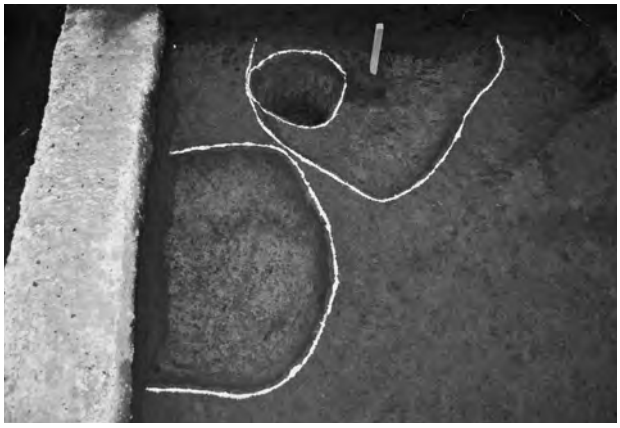
ハケ遺跡第 7 地点 H16 号住居跡

ハケ遺跡第 7 地点 H16 号住跡掘方

ハケ遺跡第 7 地点 H17 号住居跡

ハケ遺跡第 7 地点 H17 号住居跡

ハケ遺跡第 7 地点土坑 3・4 遺物出土状況



ハケ遺跡第 7 地点土坑 3・4

ハケ遺跡第 7 地点土坑 2

ハケ遺跡第 7 地点遺構外遺物出土状況

ハケ遺跡第 7 地点井戸 1 動物遺体出土状況

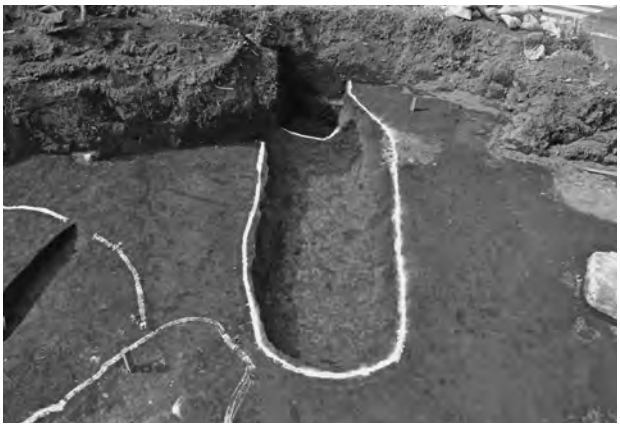
ハケ遺跡第 7 地点井戸 1

ハケ遺跡第 7 地点溝 1

ハケ遺跡第 7 地点溝 1

ハケ遺跡第 7 地点溝 1

ハケ遺跡第 7 地点溝 2



ハケ遺跡第 7 地点溝 3

ハケ遺跡第 7 地点溝 4

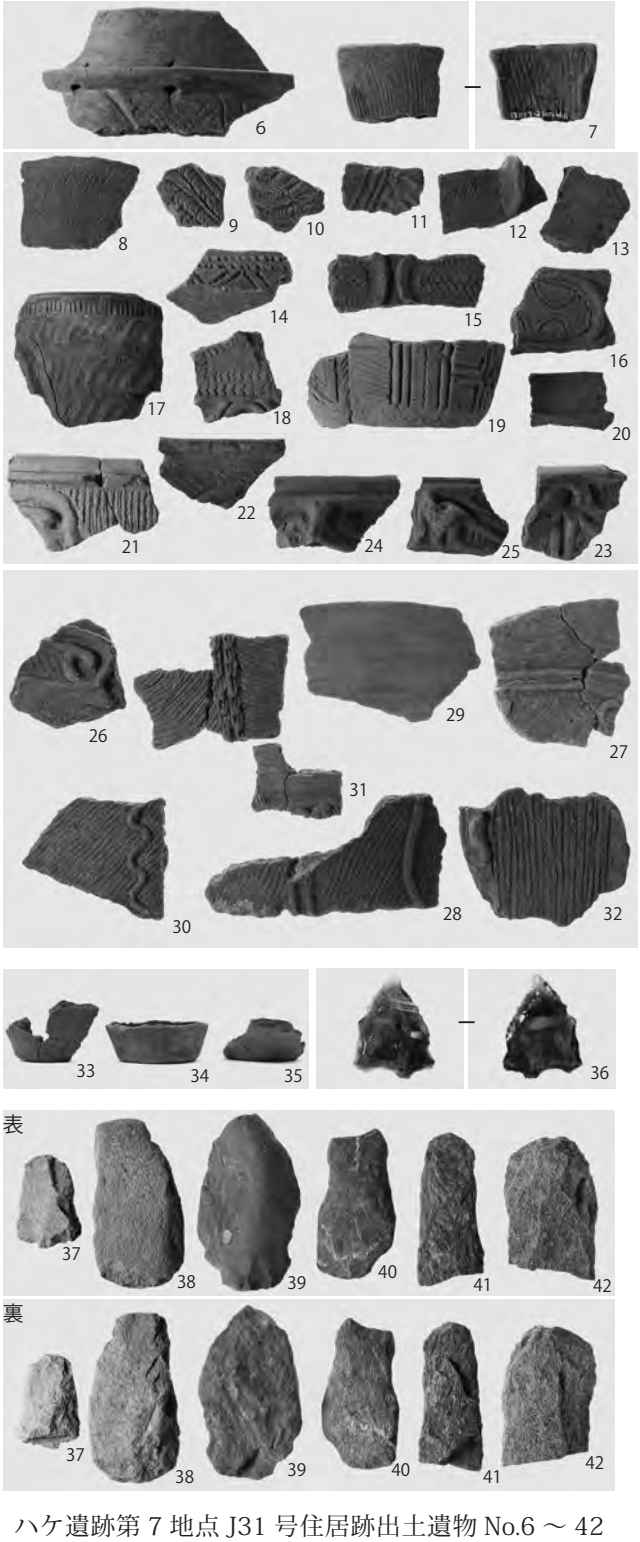
ハケ遺跡第 7 地点全景

ハケ遺跡第 7 地点全景

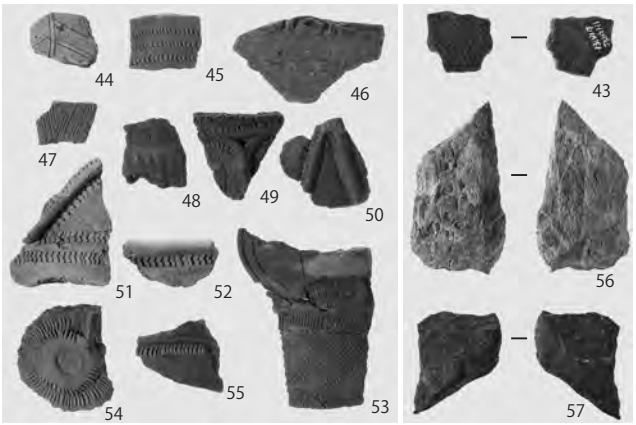
ハケ遺跡第 7 地点全景

ハケ遺跡第 7 地点試掘調査トレンチ

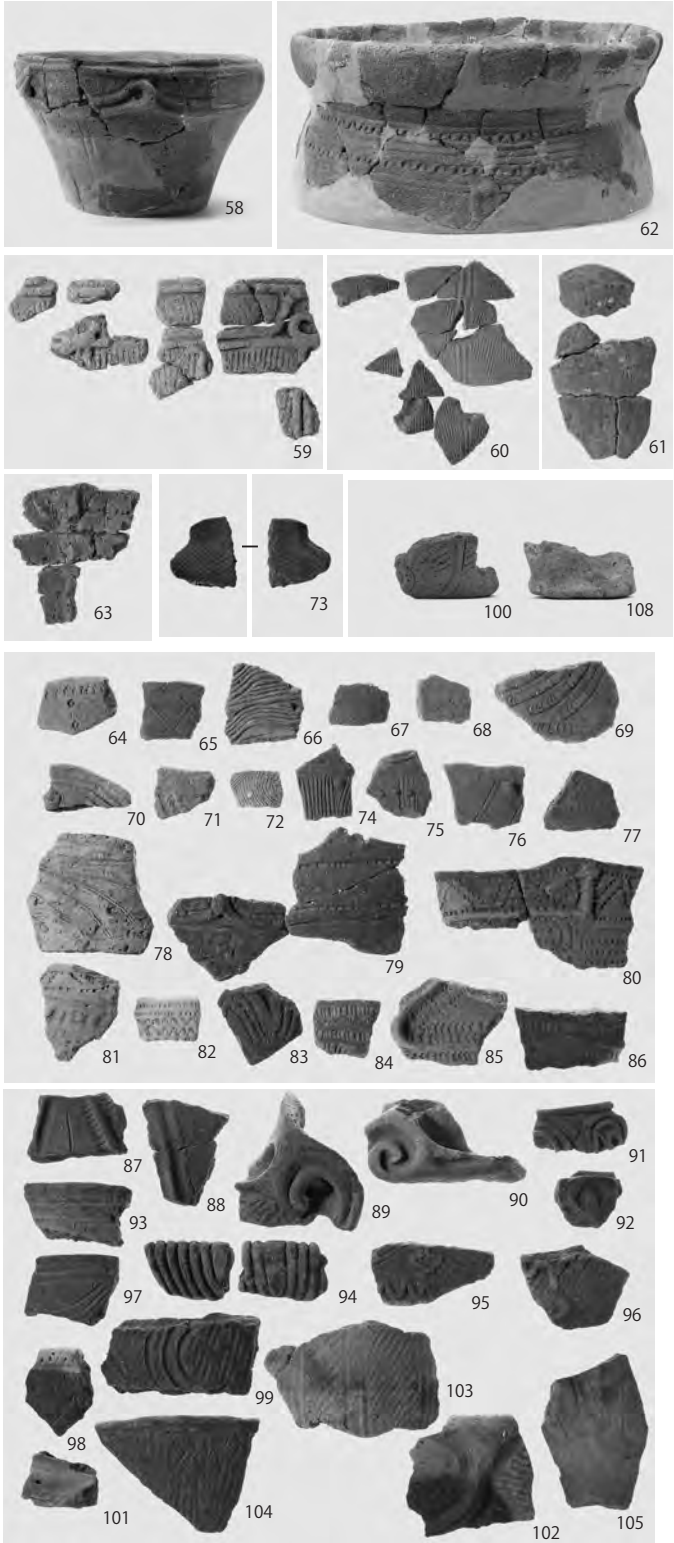
ハケ遺跡第 7 地点 J31 号住居跡出土土器 No.1 ～ 5



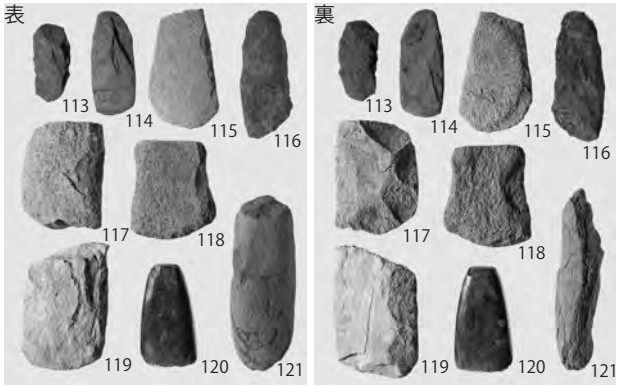
ハケ遺跡第 7 地点 J31 号住居跡出土遺物 No.6 ～ 42



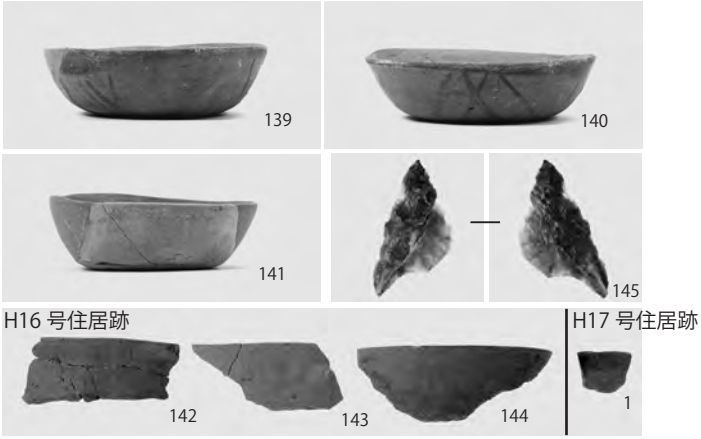
ハケ遺跡第 7 地点 J32 号住居跡出土遺物 No.43 ～ 57



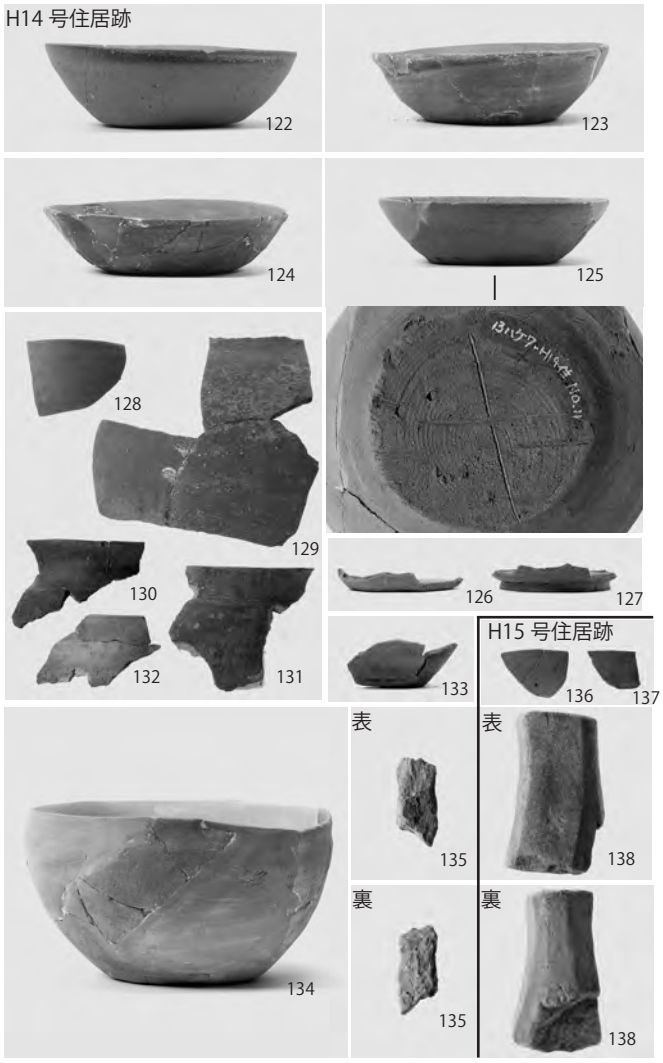
ハケ遺跡第 7 地点 J33 号住居跡出土遺物 No.58 ～ 112



ハケ遺跡第 7 地点 J33 号住居跡出土石器 No.113 ～ 121



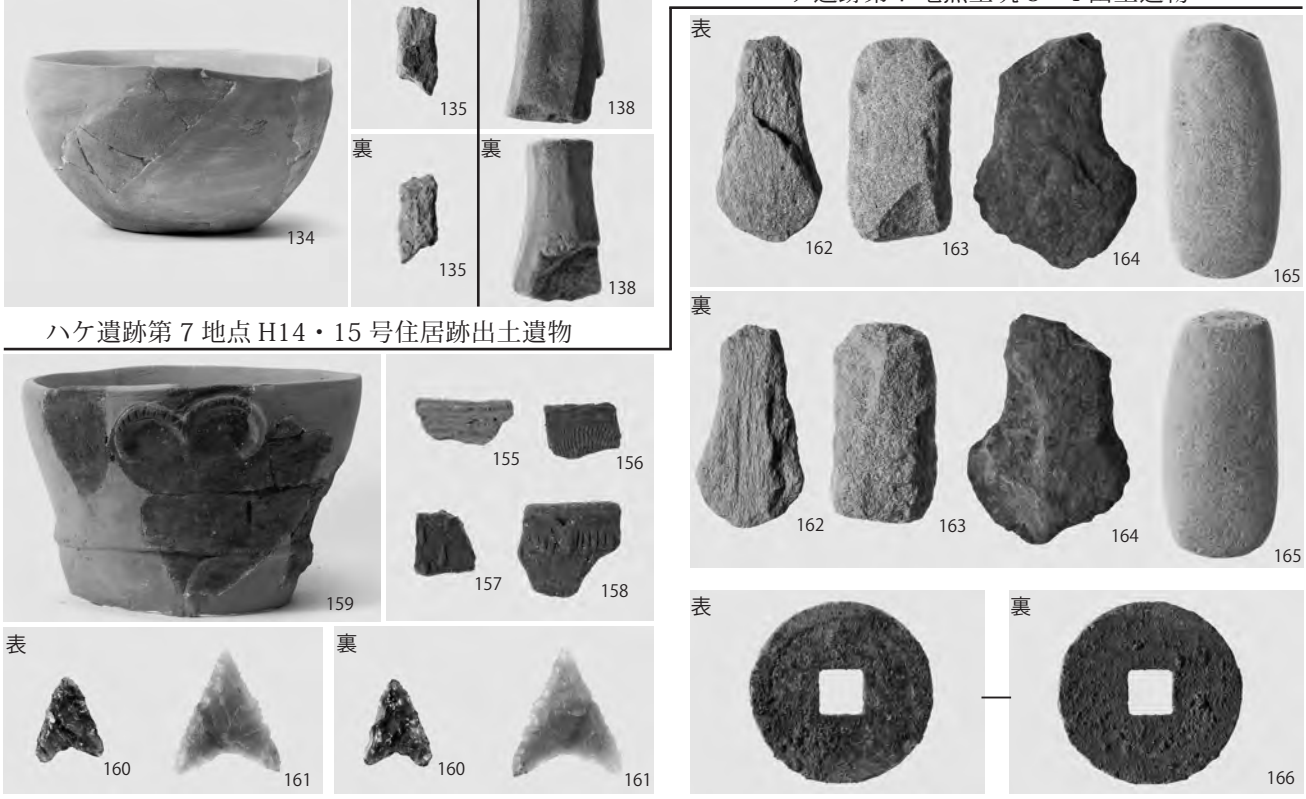
ハケ遺跡第 7 地点 H16・17 号住居跡出土遺物



ハケ遺跡第 7 地点 H14・15 号住居跡出土遺物

ハケ遺跡第 7 地点集石土坑 1 出土遺物

ハケ遺跡第 7 地点土坑 3・4 出土遺物



ハケ遺跡第 7 地点遺構外出土遺物 No.155 ～ 166